

伊是名村食育・地産地消に関するアンケート 調査結果報告書

- 住民向け調査
- 児童生徒の保護者向け調査

令和3年3月
伊 是 名 村

◎ 目 次 ◎

I	調査の概要	1
1.	調査の目的	1
2.	実施主体	1
3.	調査対象者	1
4.	調査方法	1
5.	調査期間	1
6.	配布・回収状況	2
7.	集計・表示について	2
II	村民向け調査結果の報告	3
1.	回答者の基本的なこと	3
(1)	年代	3
(2)	性別	3
(3)	仕事の有無と職業	4
(4)	世帯構成	5
2.	普段の食生活と食育について	6
(1)	家族・知人等と一緒にの食事	6
(2)	健康と食生活の関係についての関心	9
(3)	郷土料理や伝承料理を食べること	10
(4)	行事食を食べること	11
(5)	日々の食事の中で実践していること(複数回答)	12
(6)	主食・主菜・副菜を揃えた食事	14
(7)	主食としてごはんを食べること	15
(8)	食事の時の食べ方の意識	17
(9)	手作りの食事の頻度	18
(10)	市販の惣菜や弁当を利用する頻度	23
(11)	市販の惣菜や弁当を利用する理由(複数回答)	24
(12)	食品の安全性への不安(複数回答)	27
(13)	食育推進で強化が必要なもの(複数回答)	30
(14)	地場産品購入の意識	33
(15)	地場産品購入を意識している理由(複数回答)	34
(16)	地場産品と県内外産品を比較して気づくこと(複数回答)	35
(17)	地場産品の種類や量を増やす場所(複数回答)	37
(18)	地場産品の販売方法(複数回答)	39
(19)	地産地消をさらに進めるしくみ(複数回答)	41

3. 特産品・郷土料理について（自由記述）	43
(1) 村の既存の海産物・加工品で今後特産品として伸びそうな商品及び改善点等	43
(2) 村の既存の農産物・加工品(酒類等含む)で今後特産品として伸びそうな商品及び改善点等	44
(3) 今後特産品として伸びそうな新たな海産物・加工品並びに新商品のアイデア	45
(4) 今後特産品として伸びそうな新たな農産物・加工品並びに新商品のアイデア	45
(5) 本村の郷土料理	46
4. 食育・地産地消の推進についての意見（自由記述）	46
Ⅲ 児童生徒の保護者向け調査結果の報告	49
1. 食育の周知と普段の食事について	49
(1) 食育の周知状況	49
(2) 朝食	49
(3) 家族そろっての食事	50
(4) 野菜のおかずを食べること	51
(5) 魚を食べること	51
2. 地産地消について	52
(1) 地産地消の周知状況	52
(2) 地場産物を意識した購入	52
3. 沖縄の郷土料理について	53
(1) 知っている郷土料理	53
(2) 作り方を知っている沖縄の郷土料理	54
(3) 郷土料理・伝統食を食卓に出すこと	54
4. 食に対する意識等について	55
(1) 食品表示	55
(2) 給食センターの献立表やセンター便り	55
(3) 食について家庭で話題にすること	56
(4) 食生活で気をつけていること（複数回答）	57
(5) 食育・地産地消を進めるために必要なこと（複数回答）	59
5. 伊是名村の郷土料理（自由記述）	61
6. 食育・地産地消を広めるための取組及び食育・地産地消についての見解（自由記述）	61

I 調査の概要

1. 調査の目的

本村では、地域資源を活用した6次産業化、地産地消等の事業を推進し、農林水産業及び商工業を支援する関係機関及び団体が連携して、魅力ある商品及びサービスの開発、販売等の事業活動への支援を図るため、伊是名村6次産業化・地産地消等推進協議会を設立しました。

今後、当該協議会運営の向上を図る必要があり、そのため、村民及び小・中学生の保護者を対象に、食育並びに地産地消に関する意識や実態を把握し、協議会運営の基礎資料として活用することを目的に、本調査を実施しました。

2. 実施主体

伊是名村第6次産業化・地産地消等推進協議会事務局(伊是名村役場農林水産課内)

3. 調査対象者

①村民

令和2年2月1日時点における村内全世帯について、主に世帯の食生活の状況を最も把握している方を調査対象としました。

②小・中学生の保護者

令和元年11月29日時点で、小学校(高学年)及び中学校(全学年)に在籍する児童生徒の保護者を調査対象としました。ただし、兄弟いる場合にはいずれか1人に調査票を配布しました。

4. 調査方法

①村民

令和2年2月号の広報誌と一緒に調査票を配布(1冊/世帯)し、後日、回収員が訪問し調査票を回収しました。また、回答者が直接役場に提出したケース(10件)があります。

※回収員は、民生委員と村民から募集した方を合わせた7人となります。

②小・中学生の保護者

該当学年の担任から児童生徒に調査票を配布し、保護者が記載後、児童生徒から担任へ提出しました。

5. 調査期間

①村民

令和2年2月7日～令和2年2月16日

②小・中学生の保護者

令和元年11月29日～令和元年12月6日

6. 配布・回収状況

	村民	小・中学生の保護者
配布数	460 件	53 件
回収数	193 件	46 件
回収率	42.0%	86.8%

7. 集計・表示について

- (1) 集計は単純集計、回答者の属性とのクロス集計及び必要に応じて設問間のクロス集計を行いました。
- (2) 比率は、小数点以下第2位を四捨五入しています。このため比率を合計しても100.0%とならないことがあります。
- (3) 複数回答の設問については、比率の合計が100%を超えることがあります。
- (4) 結果が分かり易いよう、「無回答」を除いて表示する場合があります。
- (5) 「無回答」には回答がなかったもの及び回答の判別が困難(不明)なものを含みます。
- (6) 帯グラフの左端の()内は回答者実数を表します。
- (7) 報告書の文章において、選択肢が長い場合は選択肢の一部を省略して記載している場合があります。その際には文書中の選択肢の表現を「……(略)」と記載しています。
- (8) 世帯構成の文書中の表記は、調査票の選択肢を以下のように変えて表記しています。

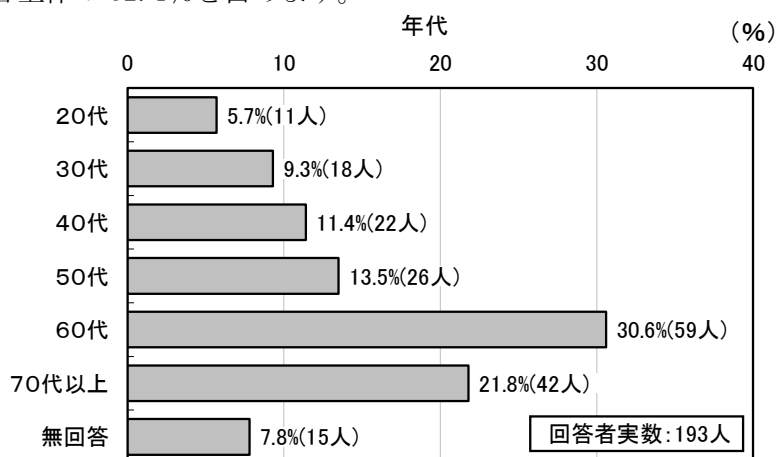
調査票の選択肢の表記	文書中の選択肢の表記
単身世帯	単身世帯
核家族世帯(夫婦のみ世帯を含む)	核家族世帯
多世代世帯(三世代以上)	多世代世帯
その他	その他世帯

Ⅱ 村民向け調査結果の報告

1. 回答者の基本的なこと

(1) 年代

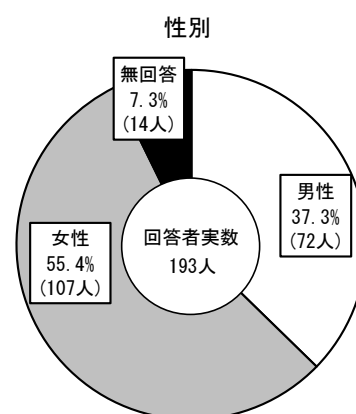
年代は、「20代」から「60代」にかけて年代が高いほど割合も高く、「20代」の5.7%から「60代」では30.6%と最も高くなります。また、「60代」の割合は「50代」の13.5%から17.1ポイントと大きく上昇しています。次に「70代以上」が21.8%で、「60代」と「70代以上」を合わせると、回答者全体の52.4%を占めます。



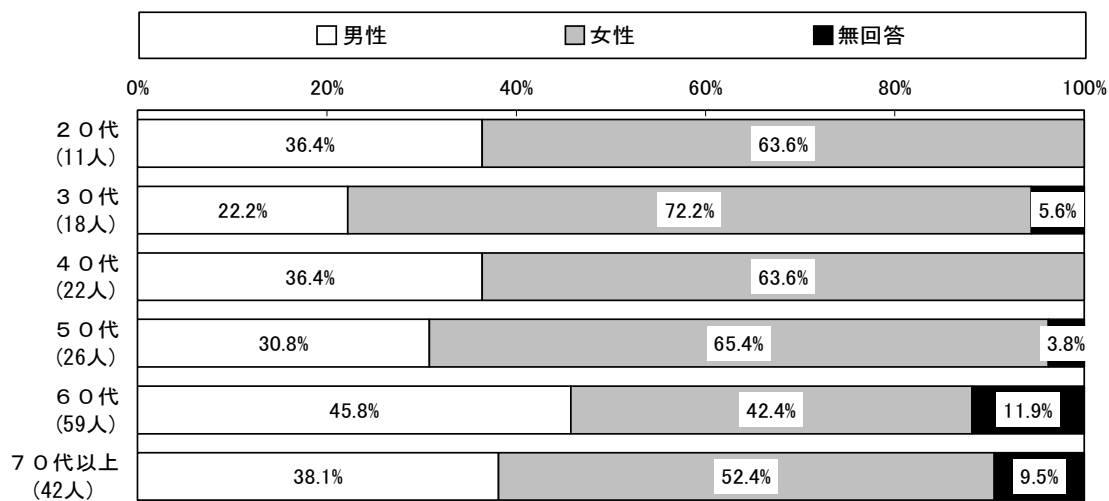
(2) 性別

性別は、「女性」が55.4%、「男性」が37.3%で、「女性」が18.1%ポイント(35人)高くなります。

年代別にみると、「60代」では「男性」の割合が「女性」よりやや高く、そのほかの年代では、「女性」の割合が高くなります。中でも「30代」の割合の差が50.0ポイントと最も大きく、次に「50代」で35.4ポイントの差があります。

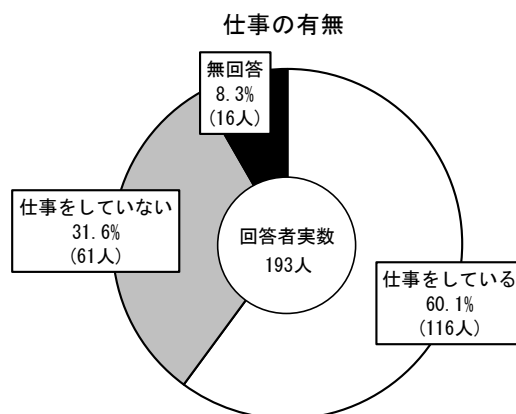


性別 (年代別)

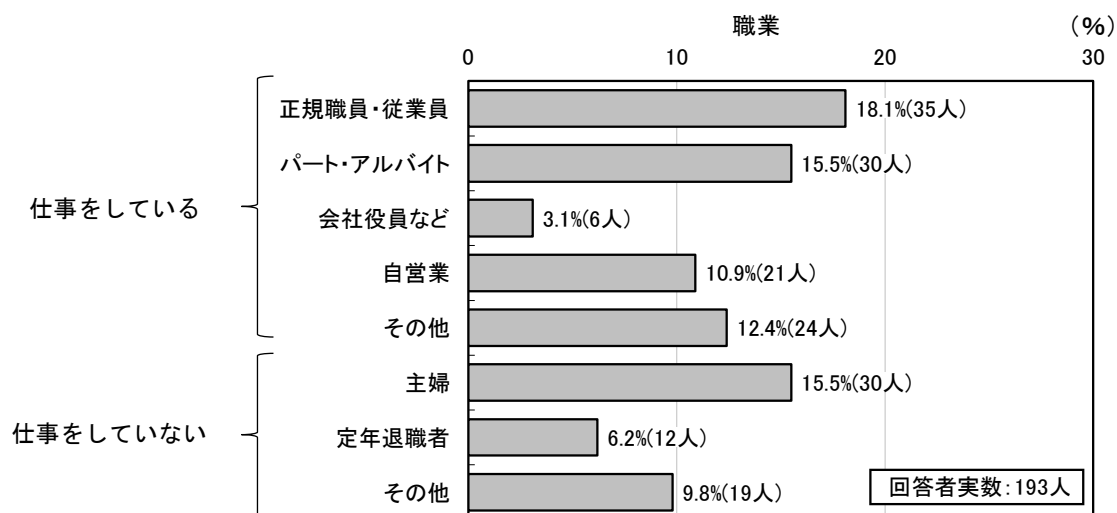


(3) 仕事の有無と職業

仕事については、「仕事をしている」が60.1%、「仕事をしていない」が31.6%となります。

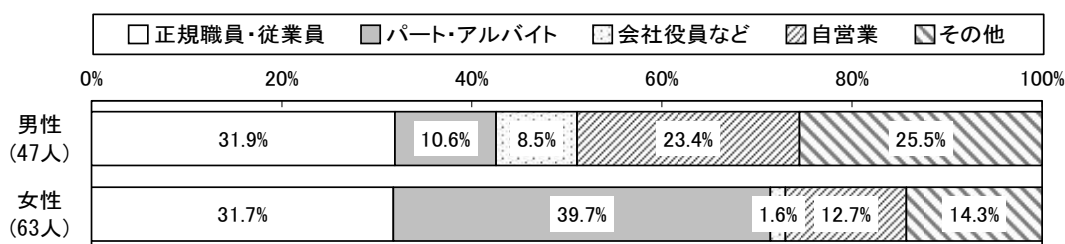


仕事をしていると答えた方では、「正規職員・従業員」が18.1%と最も高く、次に「パート・アルバイト」が15.5%となります。また、「仕事をしていない」と答えた方では、「主婦」が15.5%と最も高く、次に「その他」が9.8%となります。



仕事をしていると答えた方の職業を性別にみると、「正規職員・従業員」は男女とも31%程度とほぼ同率ですが、「パート・アルバイト」では「女性」の割合が「男性」の約3.7倍高くなります。一方、「会社役員」、「自営業」、「その他」については、「男性」の割合が高くなります。

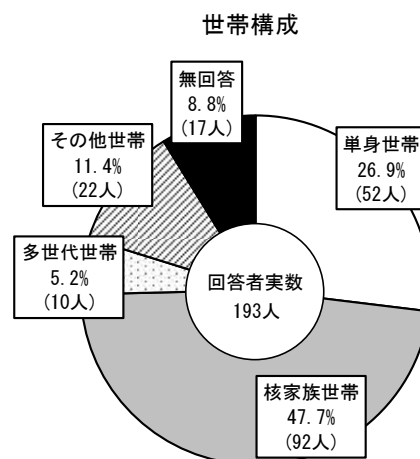
仕事をしている方(性別)



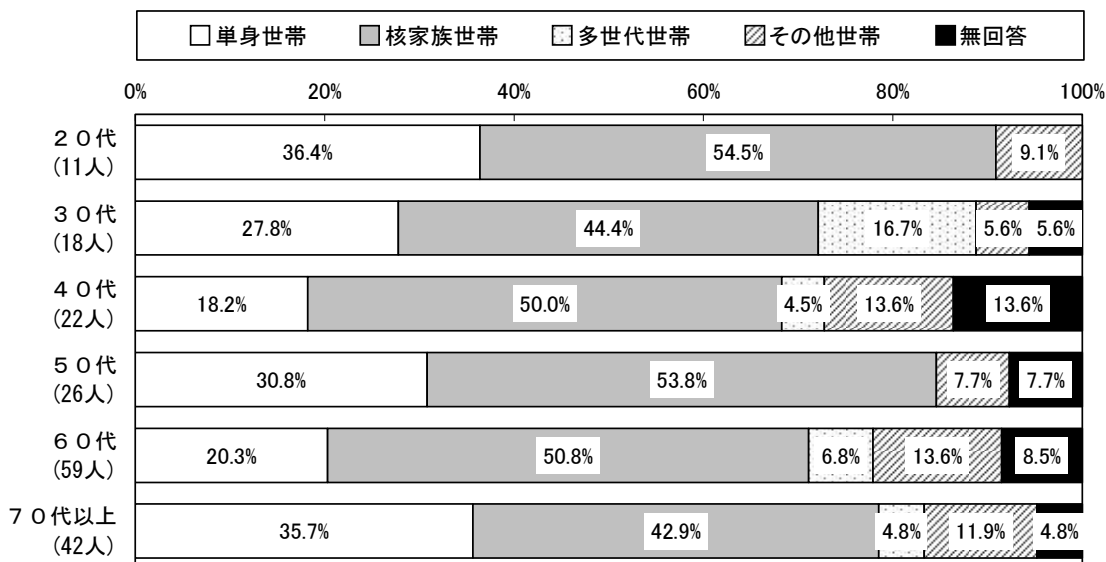
(4) 世帯構成

世帯構成は、「核家族世帯」が47.7%と最も高く、次に「単身世帯」が26.9%となります。また、「多世代世帯」が5.2%と最も低くなります。

年代別にみると、「単身世帯」は最も年齢の低い「20代」と最も年齢の高い「70代以上」が、36%程度と高くなります。また、「40代」と「60代」が20%程度と低くなります。

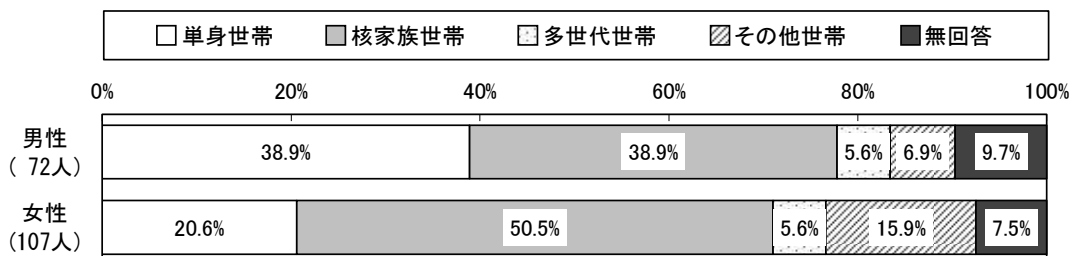


世帯構成(年代別)



性別にみると、「単身世帯」は「男性」が38.9%、「女性」が20.6%で、「男性」が18.3ポイント高くなります。一方、「核家族世帯」は「女性」が50.5%、「男性」が38.9%で「女性」が11.6ポイント高くなります。また、「その他世帯」も「女性」が9ポイント高くなります。

世帯構成(性別)



2. 普段の食生活と食育について

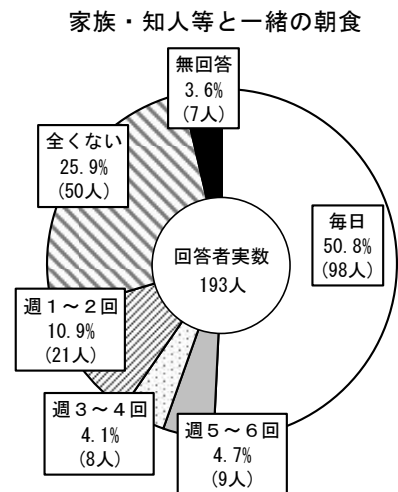
(1) 家族・知人等と一緒に食事

① 朝食について

問1(朝食)：あなたは、1週間のうち何回、家族または知人等と一緒に食事(朝食)をしていますか。
 ※全員一緒になくても、誰か一緒に食卓についていることも含みます。(〇は1つ)

週のうち、家族・知人等と一緒に朝食を食べる頻度は、「毎日」が50.8%と最も高く、半数余りを占め、次に「全くない」が25.9%と約4人に1人の割合となります。

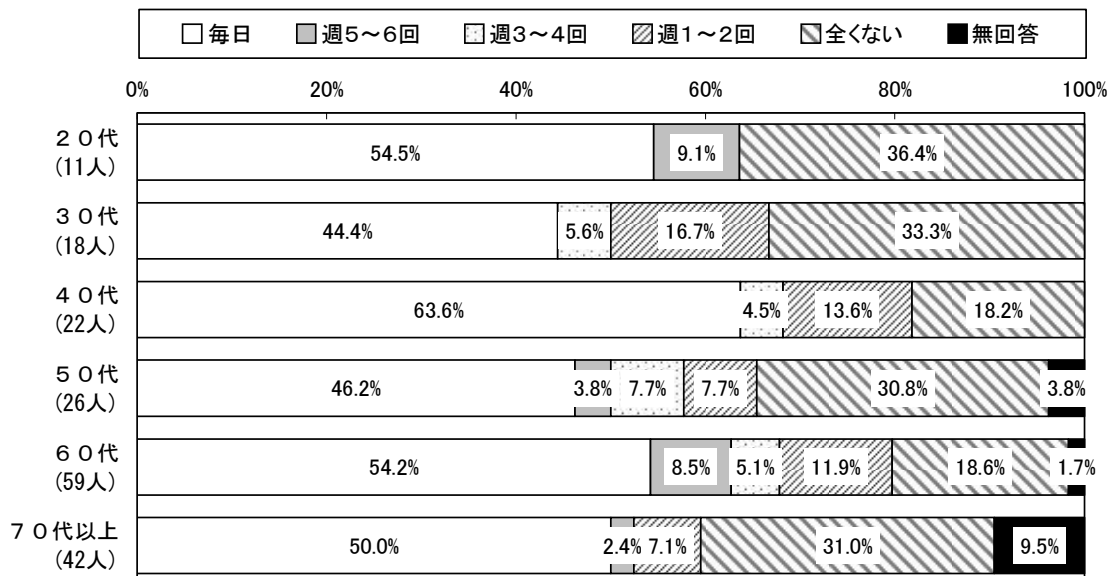
また、「週1～2回」が10.9%と1割程度、「週3～4回」と「週5～6回」が4%程度となります。



年代別にみると、「毎日」は「40代」が63.6%と最も高く、次に「20代」と「60代」、「70代以上」が50%程度となります。

一方、「全くない」は「20代」が36.4%と最も高く、「30代」、「50代」、「70代以上」も30%程度の割合となります。また、「40代」と「60代」が18%程度と低くなります。

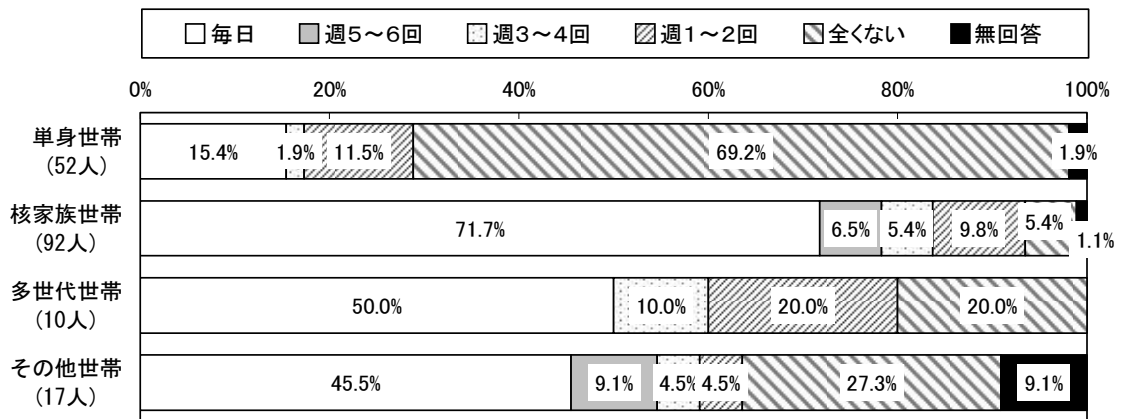
家族・知人等と一緒にの朝食(年代別)



世帯構成別にみると、「毎日」は「核家族世帯」が71.7%と最も高く、次に「多世代世帯」が50.0%で、「単独世帯」が15.4%と最も低くなります。

一方、「全くない」は「単独世帯」が69.2%と最も高く、次に「その他世帯」が27.3%で、「核家族世帯」が5.4%と最も低くなります。

家族・知人等と一緒に朝食(世帯構成別)

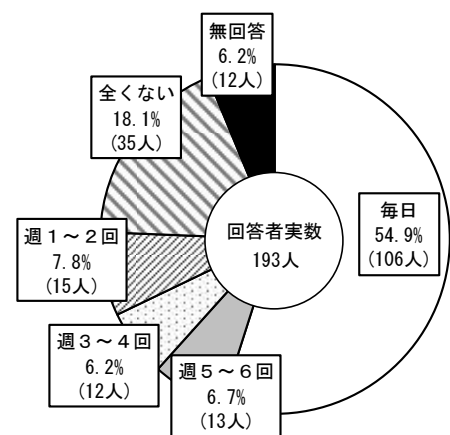


②夕食について

問1(夕食): あなたは、1週間のうち何回、家族または知人等と一緒に食事(夕食)をしていますか。
 ※全員一緒になくても、誰か一緒に食卓についても含みます。(〇は1つ)

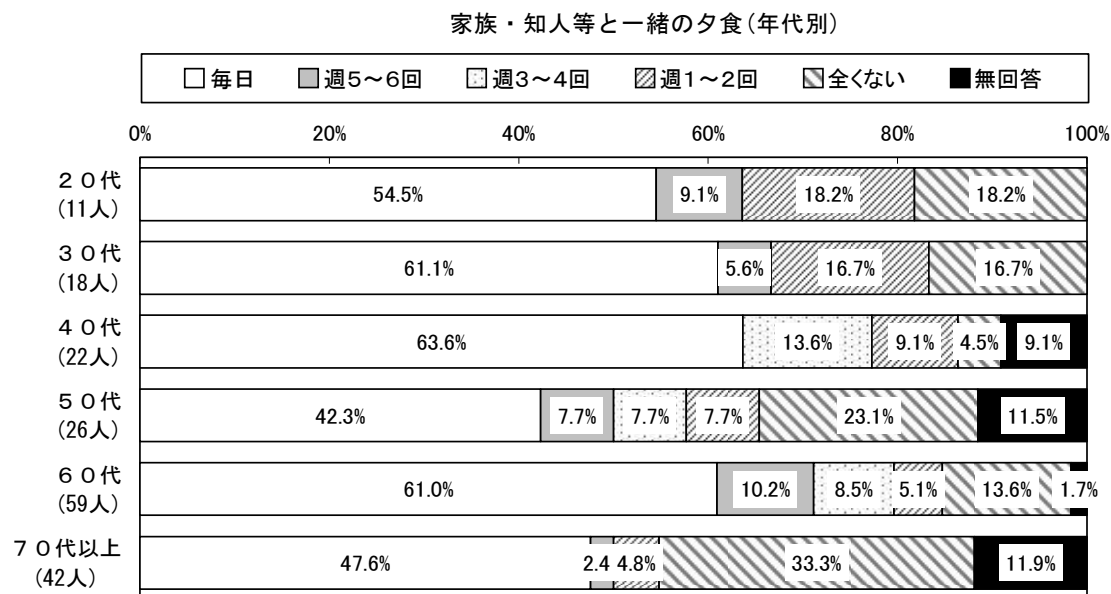
週のうち、家族・知人等と一緒に夕食を食べる頻度は、「毎日」が54.9%と最も高く、次に「全くない」が18.1%となります。また、「週1~2回」、「週3~4回」、「週5~6回」はそれぞれ6%~7%程度の割合となります。

家族・知人等と一緒に夕食



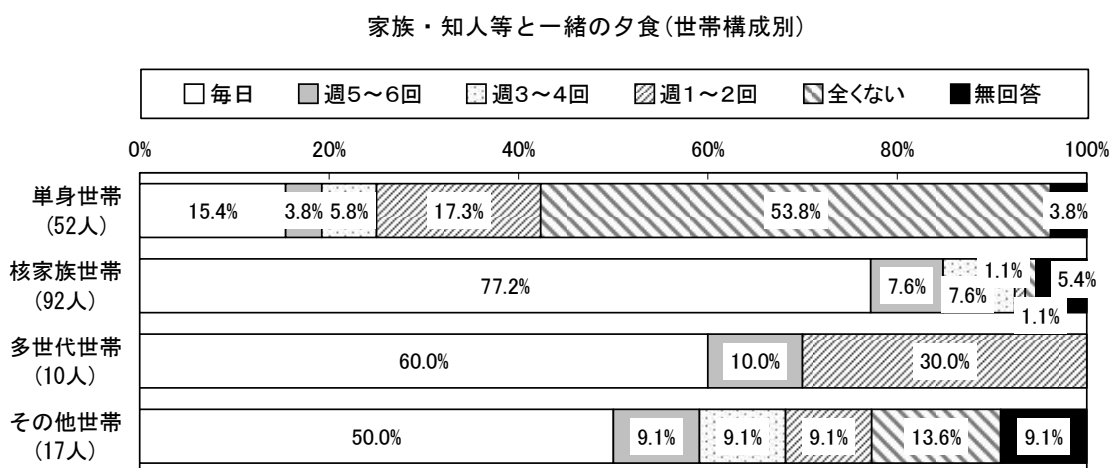
年代別にみると、「毎日」は「30代」、「40代」、「60代」が60%余りと高く、「50代」と「70代以上」が40%台と低くなります。

一方、「全くない」は「70代以上」が33.3%と最も高く、次に「50代」が23.1%で、「40代」が4.5%と最も低くなります。



世帯構成別にみると、「毎日」は「核家族世帯」が77.2%と最も高く、次に「多世代世帯」が60.0%で、「単身世帯」が15.4%と最も低くなります。

一方、「全くない」は「単身世帯」が53.8%と最も高く、次に「その他世帯」が13.6%となります。また、「核家族世帯」が1.1%で、「多世代世帯」の回答はありません。



③朝食と夕食について

朝食、夕食とも家族・知人等と食べることが「全くない」と答えた方は16.6%となります。

「全くない」と答えた方を、年代別にみると、「70代以上」が40.6%と最も高く、次に「60代」が21.9%、「50代」が18.8%と、年代が高い方に多いことがわかります。

また、世帯構成別にみると、「単身世帯」が87.5%とほとんどを占めます。

朝食・夕食とも家族・知人等と食べることが「全くない」者の割合

	割合	人数
朝食・夕食とも家族・知人等と食べることが「全くない」	16.6	32
朝食または夕食を週1回以上は家族・知人等と食べている	80.3	155
無回答	3.1	6
回答者実数		193

朝食・夕食とも家族・知人等と食べることが「全くない」者の割合(年代別)

	割合	人数
20代	6.3	2
30代	6.3	2
40代	3.1	1
50代	18.8	6
60代	21.9	7
70代以上	40.6	13
無回答	3.1	1
回答者実数		32

朝食・夕食とも家族・知人等と食べることが「全くない」者の割合(世帯構成別)

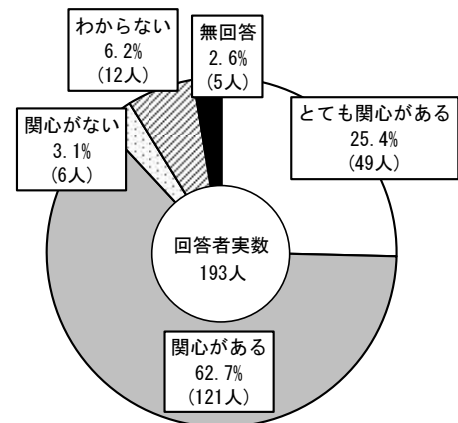
	割合	人数
単身世帯	87.5	28
核家族世帯	0	0
多世代世帯	0	0
その他世帯	9.4	3
無回答	3.1	1
回答者実数		32

(2)健康と食生活の関係についての関心

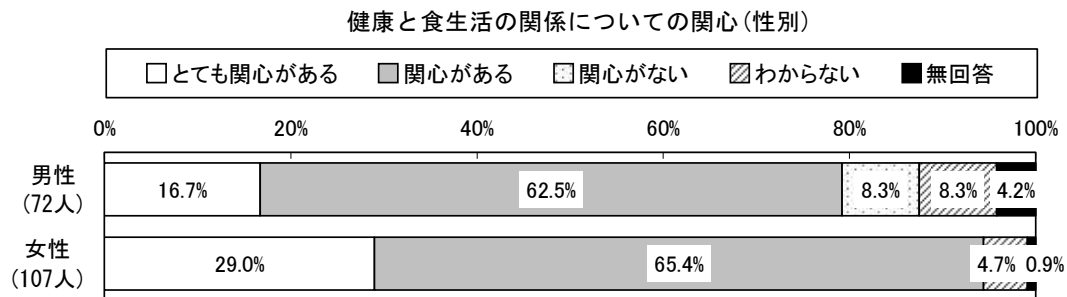
問2：あなたは、「健康と食生活の関係」について関心がありますか。(○は1つ)

「健康と食生活の関係」については、「関心がある」が62.7%と最も高く、次に「とても関心がある」が25.4%で、合わせると88.1%とほとんどの方が関心を持っています。

健康と食生活の関係についての関心



性別にみると、「とても関心がある」は「女性」が29.0%、「男性」が16.7%で、「女性」が12.3ポイント高くなります。また、「関心がある」も「女性」が2.9ポイントと高くなります。



(3) 郷土料理や伝承料理を食べること

問3：あなた(あなたの家庭)は、日常の食事の中に郷土料理や伝承料理を取り入れて食べていますか。(○は1つ)

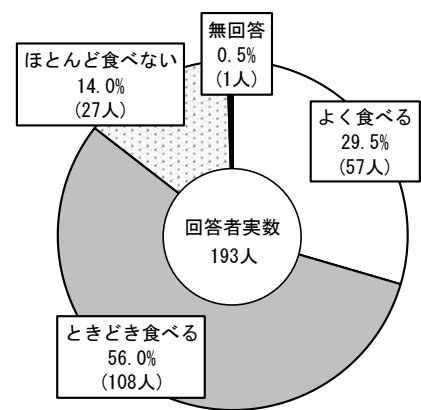
日常の食事の中で郷土料理や伝承料理を食べているかについては、「ときどき食べる」が56.0%と最も高く、次に「よく食べる」が29.5%で、郷土料理等を食べている方が多いことがわかります。

一方、「ほとんど食べない」が14.0%となります。

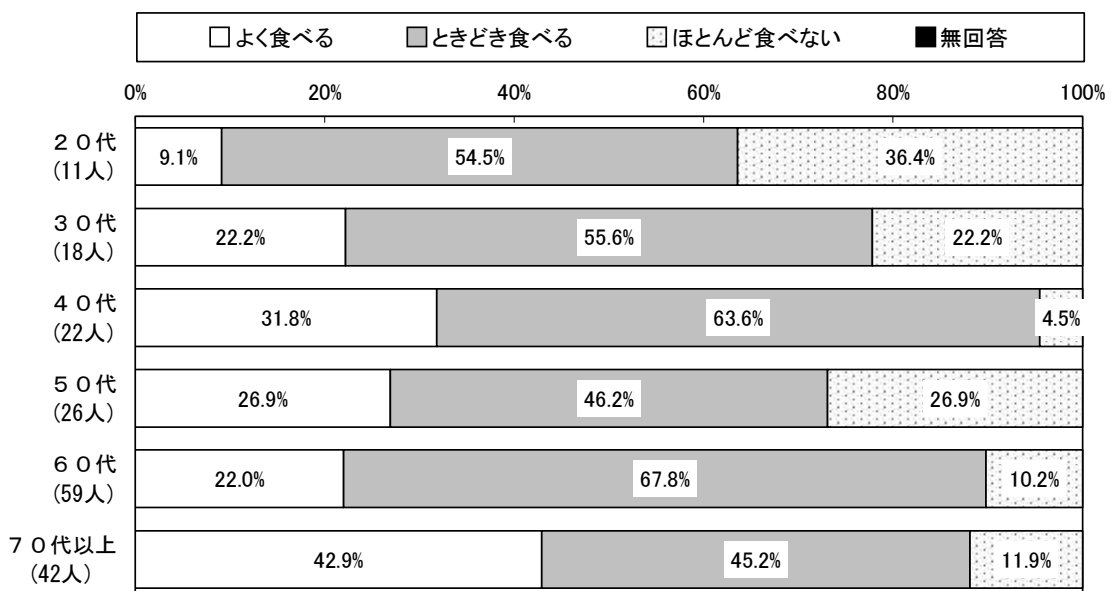
年代別にみると、「よく食べる」は「70代以上」が42.9%と最も高く、次に「40代」が31.8%で、「20代」が9.1%と最も低くなります。

一方、「ほとんど食べない」は「20代」が36.4%と最も高く、次に「50代」が26.9%で、「40代」が4.5%と最も低くなります。

郷土料理や伝承料理を食べること



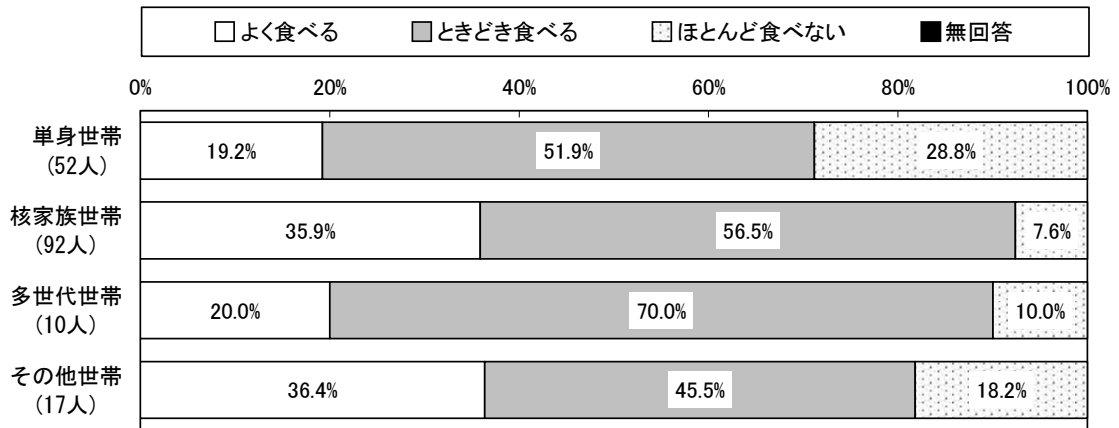
郷土料理や伝承料理を食べること(年代別)



世帯構成別にみると、「よく食べる」は「その他世帯」が36.4%、「核家族世帯」が35.9%と高く、「単身世帯」と「多世代世帯」が20%程度と低くなります。

一方、「ほとんど食べない」は「単身世帯」が28.8%と最も高く、次に「その他世帯」が18.2%で、「核家族世帯」が7.6%、「多世代世帯」が10.0%と低くなります。

郷土料理や伝承料理を食べること(世帯構成別)

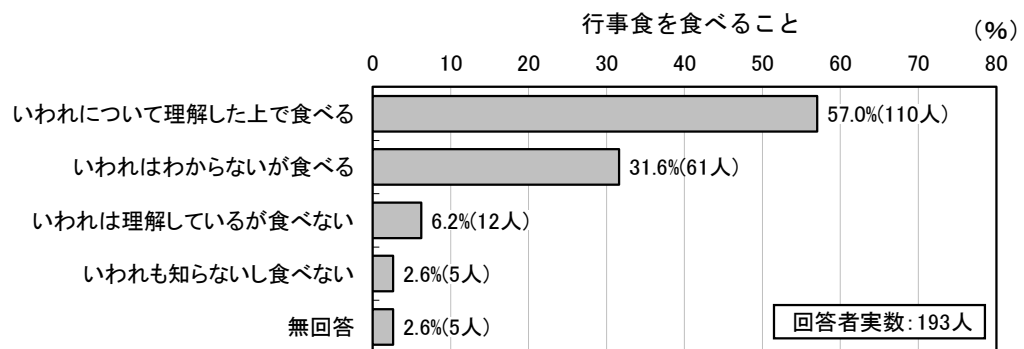


(4) 行事食を食べること

問4：あなた(あなたの家庭)は、行事食(おせち料理、清明祭等の行事で食べる食事)を取り入れて年に1回以上食べていますか。(○は1つ)

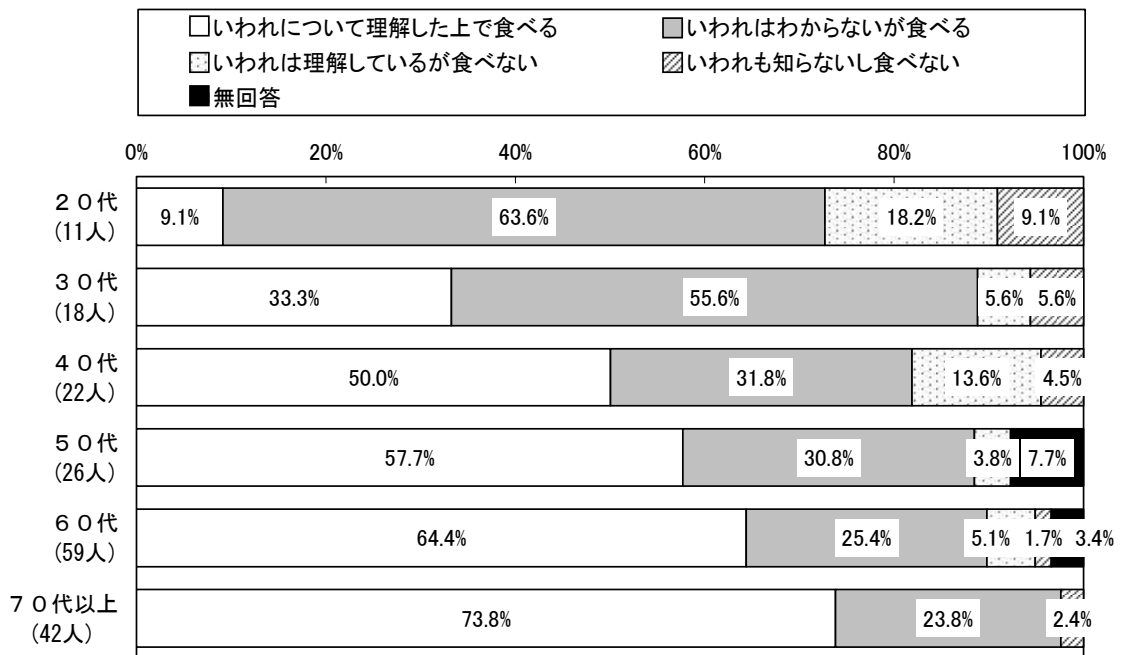
行事食(おせち料理、清明祭等の行事で食べる食事)を年1回以上食べているかについては、「いわれについて理解した上で食べる」が57.0%と最も高く、次に「いわれはわからないが食べる」が31.6%で、合わせると88.6%の方が食べると答えています。

一方、「いわれは理解しているが食べない」が6.2%、「いわれも知らないし食べない」が2.6%で、合わせると8.8%の方が食べないと答えています。



年代別にみると、「いわれについて理解した上で食べる」は年代が高いほど割合も高く、「20代」の9.1%から「70代以上」では73.8%となります。また、「いわれはわからないが食べる」は「20代」が63.6%と最も高く、年代が高いほど割合は低くなり、「70代以上」では23.3%となります。一方、「いわれは理解しているが食べない」と「いわれも知らないし食べない」を合わせた、食べないと答えた方の割合は、「20代」が27.3%と最も高く、次に「40代」が18.1%で、「70代以上」が2.4%と最も低くなります。

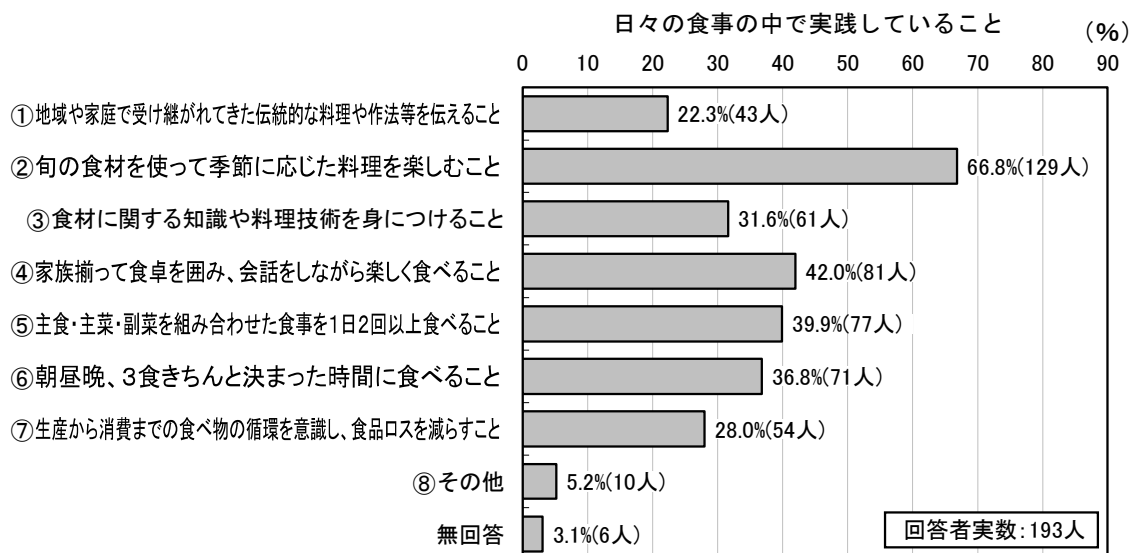
行事食を食べること(年代別)



(5) 日々の食事の中で実践していること(複数回答)

問5：あなた(あなたの家庭)が、日々の食事の中で実践していることはどれですか。(〇はいくつでも)

日々の食事の中で実践していることは、「②旬の食材を使って季節に応じた料理を楽しむこと」が66.8%と最も高く、次に「④家族揃って食卓を囲み、会話をしながら楽しく食べること」が42.0%、「⑤主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上食べること」が39.9%となります。



年代別にみると、「②旬の食材を使って季節に応じた料理を楽しむこと」は、「30代」から「50代」が80%程度、「60代」が71.2%と高く、「20代」が36.4%と最も低くなります。

「④家族揃って食卓を囲み、会話をしながら楽しく食べること」は、「20代」から「40代」が50%～60%程度と高く、「50代」以降年代が高いほど割合は低くなり、「70代以上」では28.6%と最も低くなります。

「⑤主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上食べること」は、「60代」が49.2%と最も高く、次に「40代」が45.5%、「70代以上」が42.9%で、「20代」の回答はありません。

「⑥朝昼晩、3食きちんと決まった時間に食べること」は、「70代以上」が52.4%と最も高く、次に「20代」が45.5%で、「30代」と「40代」が10%台と低い割合となります。

日々の食事の中で実践していること(年代別)

	回答者実数	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	無回答
		地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法等を伝えること	旬の食材を使って季節に応じた料理を楽しむこと	つけること	食材に関する知識や料理技術を身に付けること	家族揃って食卓を囲み、会話をしながら楽しく食べること	主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上食べること	朝昼晩、3食きちんと決まった時間に食べること	生産から消費までの食べ物循環を意識し、食品ロスを減らすこと	
20代	11人	0.0% (0人)	36.4% (4人)	18.2% (2人)	54.5% (6人)	0.0% (0人)	45.5% (5人)	9.1% (1人)	9.1% (1人)	0.0% (0人)
30代	18人	5.6% (1人)	77.8% (14人)	22.2% (4人)	55.6% (10人)	38.9% (7人)	11.1% (2人)	27.8% (5人)	0.0% (0人)	5.6% (1人)
40代	22人	27.3% (6人)	77.3% (17人)	45.5% (10人)	63.6% (14人)	45.5% (10人)	18.2% (4人)	27.3% (6人)	9.1% (2人)	0.0% (0人)
50代	26人	19.2% (5人)	80.8% (21人)	34.6% (9人)	38.5% (10人)	30.8% (8人)	30.8% (8人)	38.5% (10人)	3.8% (1人)	0.0% (0人)
60代	59人	27.1% (16人)	71.2% (42人)	30.5% (18人)	35.6% (21人)	49.2% (29人)	42.4% (25人)	33.9% (20人)	1.7% (1人)	1.7% (1人)
70代以上	42人	21.4% (9人)	54.8% (23人)	23.8% (10人)	28.6% (12人)	42.9% (18人)	52.4% (22人)	21.4% (9人)	11.9% (5人)	7.1% (3人)

世帯構成別にみると、「②旬の食材を使って季節に応じた料理を楽しむこと」は、「核家族世帯」が76.1%と最も高く、「単身世帯」が55.8%と最も低くなります。

「①地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法等を伝えること」は、「その他世帯」が36.4%と最も高く、「単身世帯」が11.5%と最も低くなります。

そのほかの実践していることでは、「多世代世帯」が40%～70%と最も高くなります。

日々の食事の中で実践していること(世帯構成別)

	回答者実数	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	無回答
		地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法等を伝えること	旬の食材を使って季節に応じた料理を楽しむこと	つけること	食材に関する知識や料理技術を身に付けること	家族揃って食卓を囲み、会話をしながら楽しく食べること	主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上食べること	朝昼晩、3食きちんと決まった時間に食べること	生産から消費までの食べ物循環を意識し、食品ロスを減らすこと	
単身世帯	52人	11.5% (6人)	55.8% (29人)	34.6% (18人)	7.7% (4人)	32.7% (17人)	38.5% (20人)	17.3% (9人)	7.7% (4人)	5.8% (3人)
核家族世帯	92人	26.1% (24人)	76.1% (70人)	29.3% (27人)	55.4% (51人)	43.5% (40人)	35.9% (33人)	34.8% (32人)	6.5% (6人)	1.1% (1人)
多世代世帯	10人	20.0% (2人)	60.0% (6人)	40.0% (4人)	70.0% (7人)	70.0% (7人)	40.0% (4人)	50.0% (5人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
その他世帯	22人	36.4% (8人)	63.6% (14人)	36.4% (8人)	45.5% (10人)	45.5% (10人)	31.8% (7人)	13.6% (3人)	0.0% (0人)	4.5% (1人)

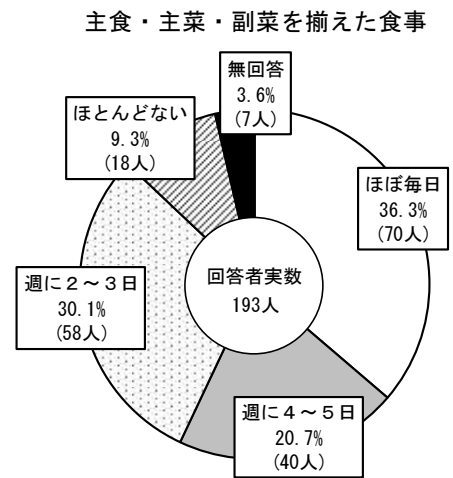
(6) 主食・主菜・副菜を揃えた食事

問 6：主食・主菜・副菜を 3 つ揃えて食べる食事を 1 日 2 回以上食べるのは、週に何日ありますか。(〇は 1 つ)

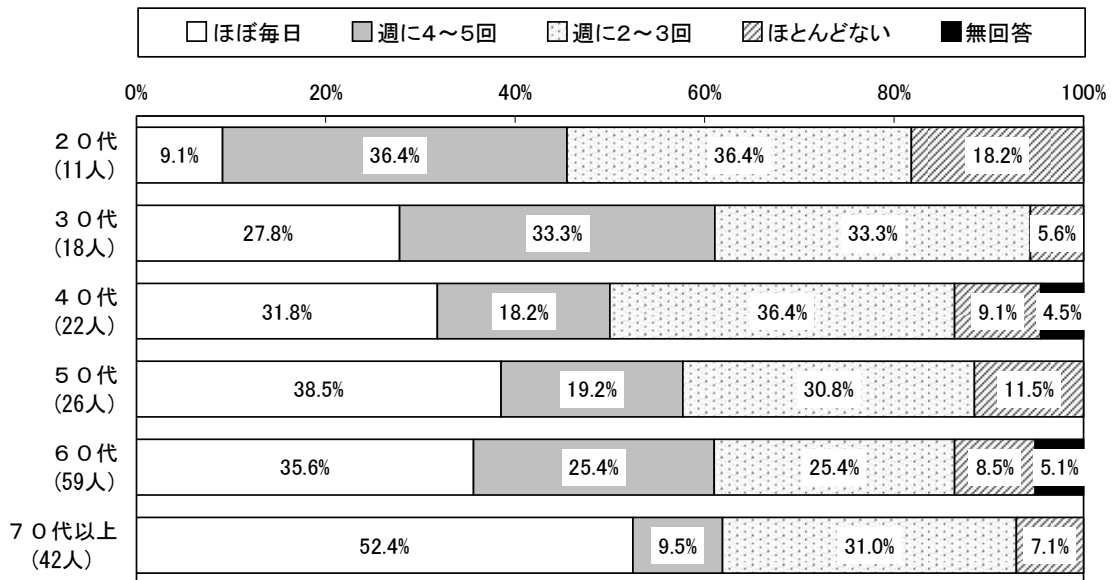
主食・主菜・副菜の 3 つを揃えた食事を 1 日 2 回以上食べる週の日数は、「ほぼ毎日」が 36.3%と最も高く、次に「週に 2~3 日」が 30.1%となります。また、「ほとんどない」が 9.3%と最も低くなります。

年代別にみると、「ほぼ毎日」は「20 代」が 9.1%と最も低く、年代が高くなるほど割合も高くなる傾向にあり、「70 代以上」では 52.4%となります。

一方、「ほとんどない」は「20 代」が 18.2%と最も高く、次に「50 代」が 11.5%となります。



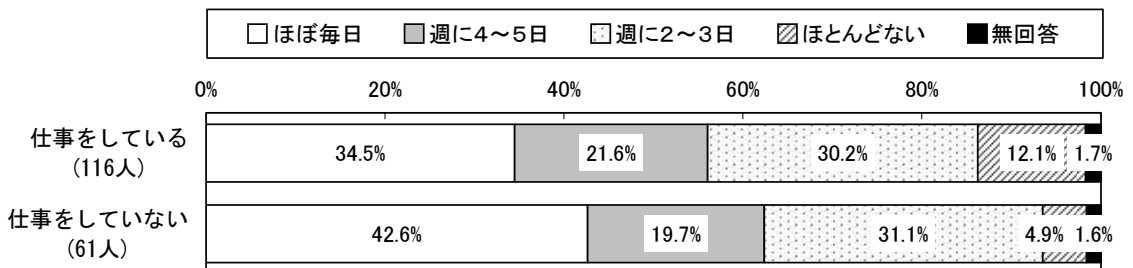
主食・主菜・副菜を揃えた食事(年代別)



仕事の有無別にみると、「ほぼ毎日」は「仕事をしている」が 34.5%、「仕事をしていない」が 42.6%で、「仕事をしていない」方が 8.1 ポイント高くなります。

一方、「ほとんどない」は「仕事をしている」方が 7.2 ポイント高く、そのほかの頻度については、仕事の有無で大きな違いはありません。

主食・主菜・副菜を揃えた食事(仕事の有無別)



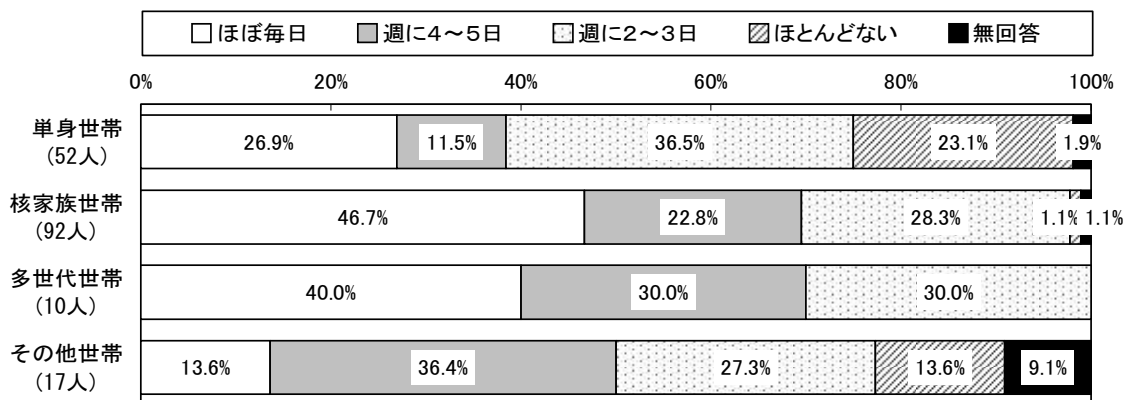
世帯構成別にみると、「ほぼ毎日」は「核家族世帯」が46.7%と最も高く、次に「多世代世帯」が40.0%で、「単身世帯」が26.9%、「その他世帯」が13.6%と低くなります。

「週に4～5日」は「その他世帯」が36.4%と最も高く、次に「多世代世帯」が30.0%で、「単身世帯」が11.5%と最も低くなります。

「週に2～3日」は「単身世帯」が36.5%と最も高く、そのほかの世帯でも30%程度の割合となります。

「全くない」は「単身世帯」が23.1%と最も高く、次に「その他世帯」が13.6%となります。また、「核家族世帯」が1.1%で、「多世代世帯」の回答はありません。

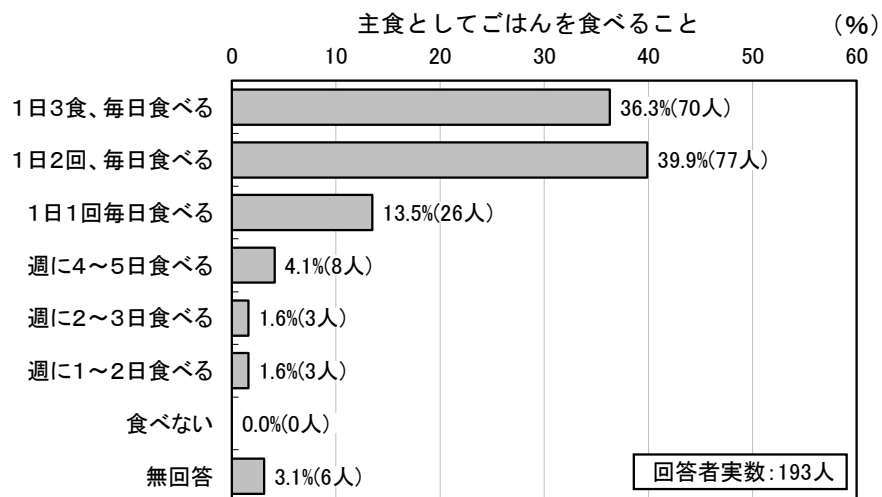
主食・主菜・副菜を揃えた食事(世帯構成別)



(7) 主食としてごはんを食べること

問7：あなた(あなたの家族)は、食事の際に主食としてごはんを食べますか。(○は1つ)

主食としてごはんを食べることについては、「1日2回、毎日食べる」が39.9%と最も高く、次に「1日3食、毎日食べる」が36.3%、「1日1回、毎日食べる」が13.5%となります。



年代別にみると、「1日2回、毎日食べる」は「30代」が66.7%と最も高く、次に「50代」が50.0%で、「70代以上」が28.6%と最も低くなります。

「1日3食、毎日食べる」は「30代」が5.6%と最も低く、「40代」から年代が高いほど割合も高くなり、「70代以上」では54.8%と最も高くなります。

「1日1回、毎日食べる」は「20代」が27.3%、「40代」が22.7%と高く、「50代」が7.7%と最も低くなります。

主食としてごはんを食べること(年代別)

	回答者 実数	1日3 食、毎日 食べる	1日2 回、毎日 食べる	1日1回 毎日食べ る	週に4～ 5日食べ る	週に2～ 3日食べ る	週に1～ 2日食べ る	食べない	無回答
20代	11人	18.2% (2人)	45.5% (5人)	27.3% (3人)	9.1% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
30代	18人	5.6% (1人)	66.7% (12人)	11.1% (2人)	5.6% (1人)	0.0% (0人)	5.6% (1人)	0.0% (0人)	5.6% (1人)
40代	22人	22.7% (5人)	40.9% (9人)	22.7% (5人)	9.1% (2人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	4.5% (1人)
50代	26人	30.8% (8人)	50.0% (13人)	7.7% (2人)	7.7% (2人)	0.0% (0人)	3.8% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
60代	59人	40.7% (24人)	37.3% (22人)	13.6% (8人)	1.7% (1人)	3.4% (2人)	1.7% (1人)	0.0% (0人)	1.7% (1人)
70代以上	42人	54.8% (23人)	28.6% (12人)	11.9% (5人)	2.4% (1人)	2.4% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)

性別にみると、「1日2回、毎日食べる」は「女性」が44.9%、「男性」が31.9%と「女性」が13ポイント高くなります。また、「1日1回、毎日食べる」も「女性」が16.8%、「男性」が9.7%で、「女性」が7.1ポイント高くなります。

一方、「1日3食、毎日食べる」は「男性」が41.7%、「女性」が31.8%で、「男性」が9.9ポイント高くなります。また、週に4～5日、週に2～3日、週に1～2日食べる割合も「男性」が高くなります。

主食としてごはんを食べること(性別)

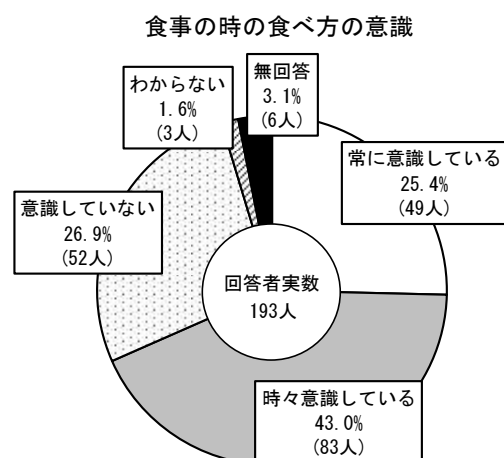
	回答者 実数	1日3 食、毎日 食べる	1日2 回、毎日 食べる	1日1回 毎日食べ る	週に4～ 5日食べ る	週に2～ 3日食べ る	週に1～ 2日食べ る	食べない	無回答
男性	72人	41.7% (30人)	31.9% (23人)	9.7% (7人)	5.6% (4人)	2.8% (2人)	4.2% (3人)	0.0% (0人)	4.2% (3人)
女性	107人	31.8% (34人)	44.9% (48人)	16.8% (18人)	3.7% (4人)	0.9% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	1.9% (2人)

(8) 食事の時の食べ方の意識

問 8 : あなた(あなたの家庭で)は、食事をする時に、「よく噛むこと」、「味わって食べること」など、食べ方を意識していますか。(○は1つ)

食事をする時に、「よく噛むこと」や「味わって食べること」などを意識しているかについては、「時々意識している」が43.0%と最も高く、「常に意識している」が25.4%となります。

一方、「意識していない」は26.9%で、「常に意識している」と同程度の割合となります。

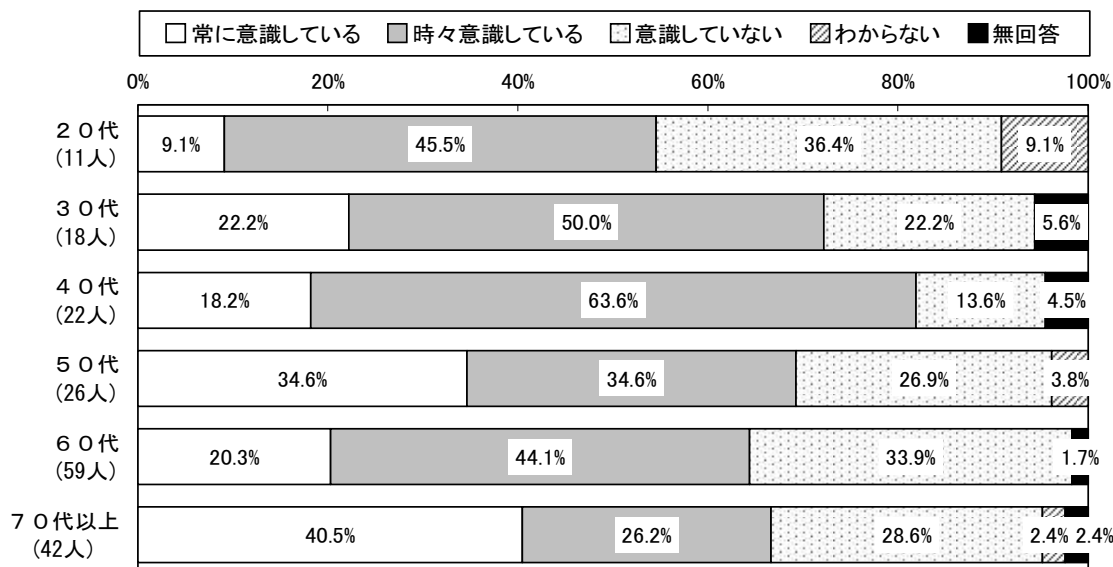


年代別にみると、「常に意識している」は「70代以上」が40.5%と最も高く、次に「50代」が34.6%で、「20代」が9.1%と最も低くなります。

「時々意識している」は「40代」が63.6%と最も高く、次に「30代」が50.0%で、「70代以上」が26.2%と最も低くなります。

一方、「意識していない」は「20代」と「60代」が30%台と高く、「40代」が13.6%と最も低くなります。

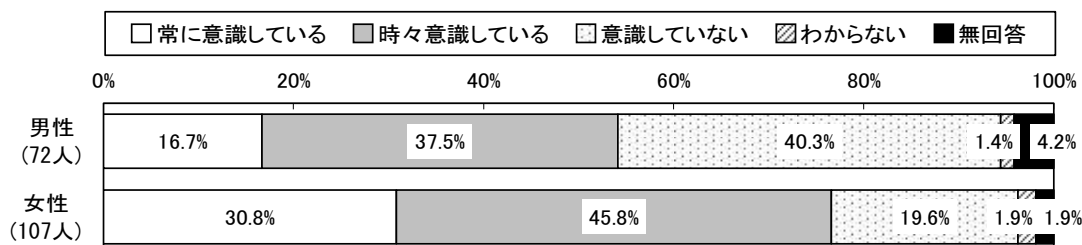
食事の時の食べ方の意識(年代別)



性別にみると、「常に意識している」は「女性」が30.8%、「男性」が16.7%で、「女性」が14.1ポイント高くなります。また、「時々意識している」も「女性」が45.8%、「男性」が37.5%で、「女性」が8.3ポイント高くなります。

一方、「意識していない」は「男性」が40.3%、「女性」が19.6%で、「男性」が20.7ポイント高くなります。

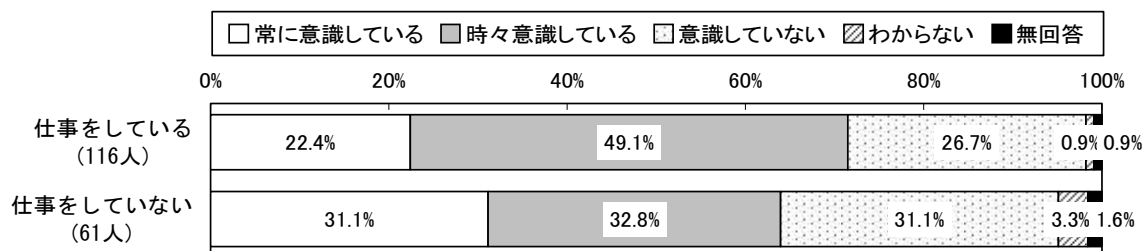
食事の時の食べ方の意識(性別)



仕事の有無別にみると、「時々意識している」は「仕事をしている」が49.1%、「仕事をしていない」が32.8%で、「仕事をしている」方が16.3ポイント高くなります。

「常に意識している」と「意識していない」は、いずれも「仕事をしていない」が31.1%で、「仕事をしている」方より、それぞれ8.7ポイント、4.4ポイント高くなります。

食事の時の食べ方の意識(仕事の有無別)

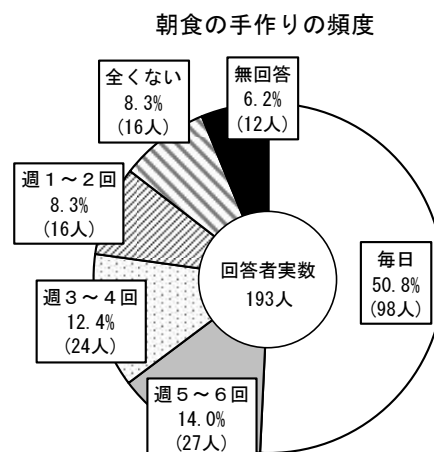


(9) 手作りの食事の頻度

①朝食について

問9(朝)：あなた(あなたの家庭)の日常の食事では、どのくらいの頻度で手作りをしていますか。
※一品だけでも構いません(○は1つ)

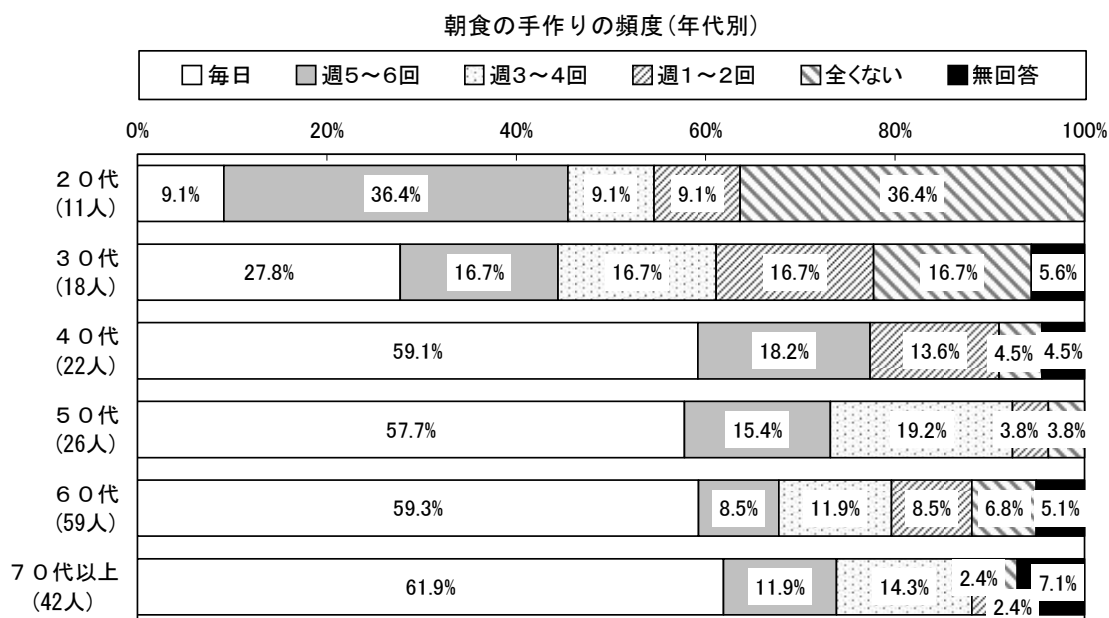
週のうち、朝食を手作りでつくる頻度は、「毎日」が50.8%と半数余りを占め、次に「週5~6回」が14.0%で、「全くない」が8.3%と最も低くなります。



年代別にみると、「毎日」は「20代」が9.1%と最も低く、次に「30代」が27.8%となりますが、「40代」以降は60%程度と高くなります。

「週5~6回」は「20代」が36.4%と最も高く、「60代」が8.5%と最も低くなります。そのほかの年代では10%台の割合となります。

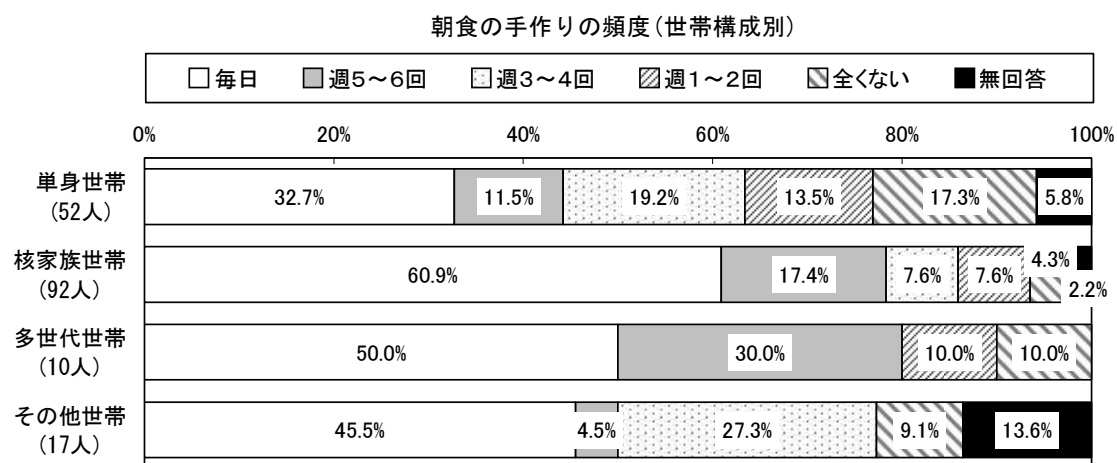
「全くない」も「20代」が36.4%と最も高く、次に「30代」が16.7%で、そのほかの年代では6.8%以下の割合となります。



世帯構成別にみると、「毎日」は「核家族世帯」が60.9%と最も高く、次に「多世代世帯」が50.0%で、「単身世帯」が32.7%と最も低くなります。

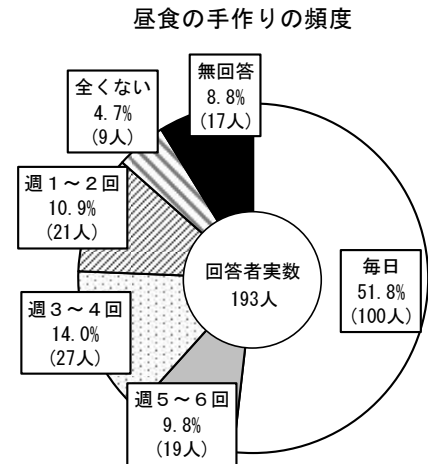
「週5~6回」は「多世代世帯」が30.0%と最も高く、「核家族世帯」が17.4%、「単身世帯」が11.5%と低くなります。

一方、「週3~4回」、「週1~2回」、「全くない」の割合は、「その他世帯」を除いて、いずれも「単身世帯」の割合が最も高くなります。



②昼食について

週のうち、昼食を手作りでつくる頻度は、朝食と同じく「毎日」が 51.8%と半数余りを占めます。次に「週 3～4 回」が 14.0%となります。

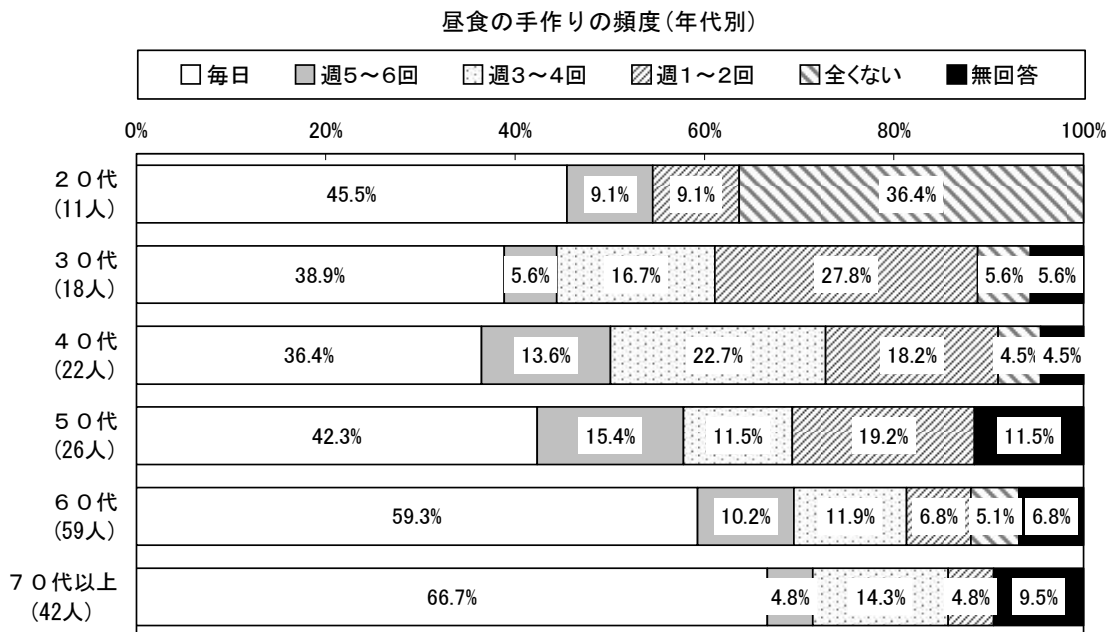


年代別にみると、「毎日」は「40代」が 36.4%と最も低く、「40代」を境に年代が若いほど、また年代が高いほど割合は高くなり、「70代以上」が 66.7%と最も高く、次に「60代」が 59.3%となります。

「週 3～4 回」は「40代」が 22.7%と最も高く、「20代」の方の回答はありません。また、そのほかの年代では 10%台の割合となります。

「週 1～2 回」は「30代」が 27.8%と最も高く、次に「40代」と「50代」が 20%弱の割合となります。

一方、「全くない」は「20代」が 36.4%、次に「30代」が 5.6%で、「20代」は他の年代と比べて、とりわけ高い割合となります。

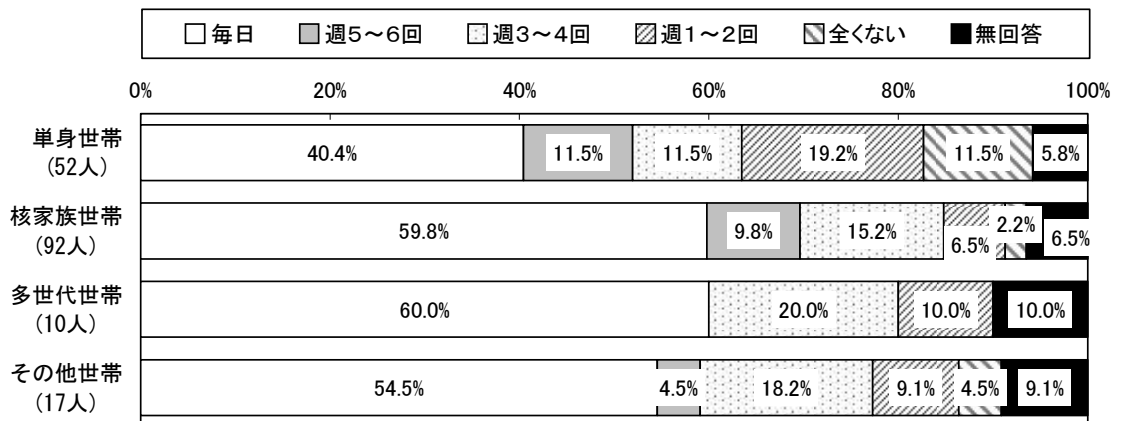


世帯構成別にみると、「毎日」は「核家族世帯」と「多世代世帯」が60%程度と高く、「単身世帯」が40.4%と最も低くなります。

「週3～4回」は「多世代世帯」と「その他世帯」が20%程度と高く、「単身世帯」が11.5%と最も低くなります。

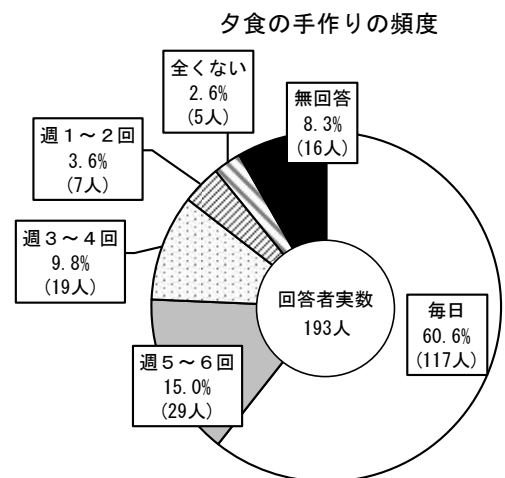
一方、「週5～6回」と「週1～2回」、「全くない」は、「単身世帯」の割合が最も高くなります。

昼食の手作りの頻度(世帯構成別)



③夕食について

週のうち、夕食を手作りでつくる頻度は、「毎日」が60.6%と最も高く、次に「週5～6回」が15.0%で、「全くない」が2.6%と最も低くなります。



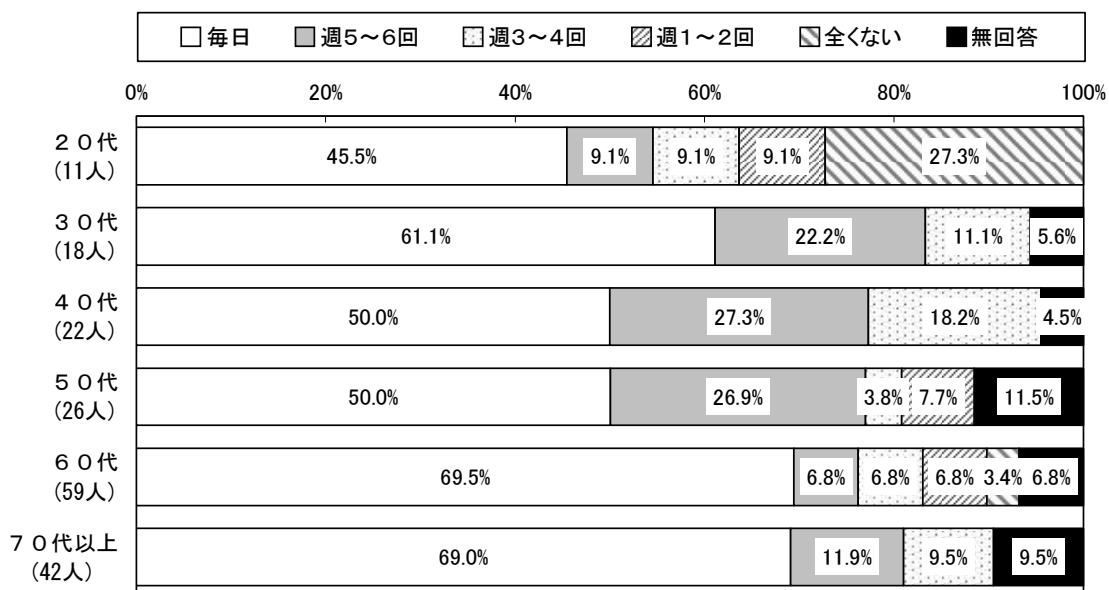
年代別にみると、「毎日」は「60代」と「70代以上」が69%台と高く、次に「30代」が61.1%で、「20代」が45.5%と最も低くなります。

「週5～6回」は、「30代」から「50代」が20%台と高く、「60代」が6.8%と最も低くなります。

「週3～4回」は「40代」が18.2%と最も高く、次に「30代」が11.1%となります。

「全くない」と答えたのは「20代」と「60代」で、「20代」が27.3%、「60代」が3.4%となります。

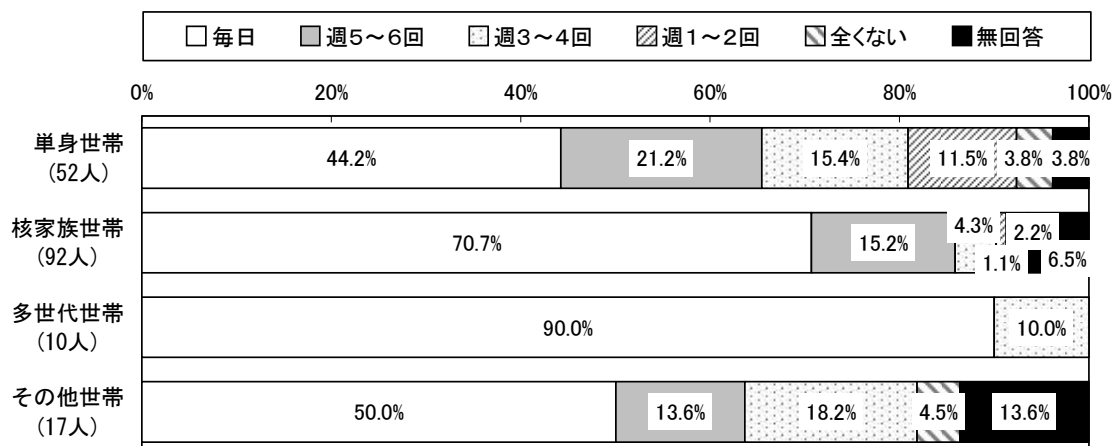
夕食の手作りの頻度(年代別)



世帯構成別にみると、「毎日」は「多世代世帯」が90.0%と最も高く、次に「核家族世帯」が70.7%で、「単身世帯」が44.2%と最も低くなります。

また、そのほかの頻度については、「その他世帯」を除いて「単身世帯」が最も高くなります。

夕食の手作りの頻度(世帯構成別)



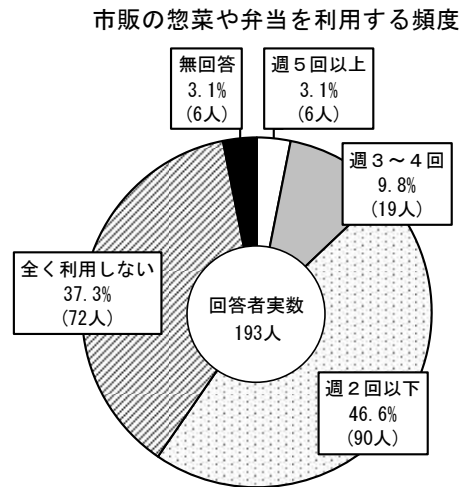
(10) 市販の惣菜や弁当を利用する頻度

問 10：あなた(あなたの家庭で)は、家庭での食事に市販のお惣菜やお弁当をどのくらいの頻度で利用していますか。(〇は1つ)

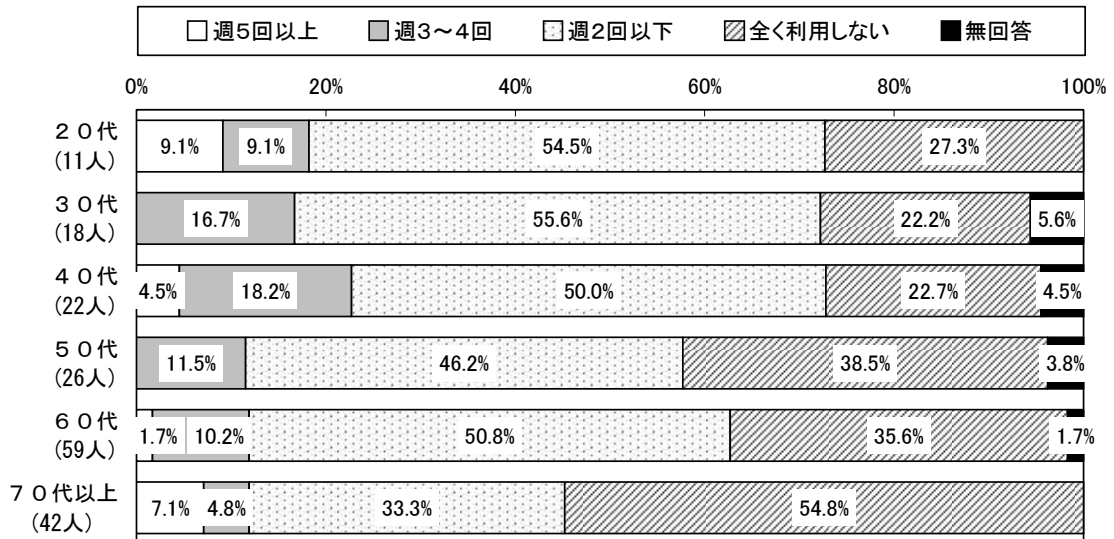
家庭での食事に市販の惣菜や弁当を利用する頻度は、「週2回以下」が46.6%と最も高く、次に「全く利用しない」が37.3%となります。

年代別にみると、「週2回以下」は「70代以上」が33.3%と最も低く、次に「50代」が46.2%で、そのほかの年代では50%台の割合となります。

「全く利用しない」は「70代以上」が54.8%と最も高く、次に「50代」と「60代」が30%台で、年代が高い方の割合が高くなります。

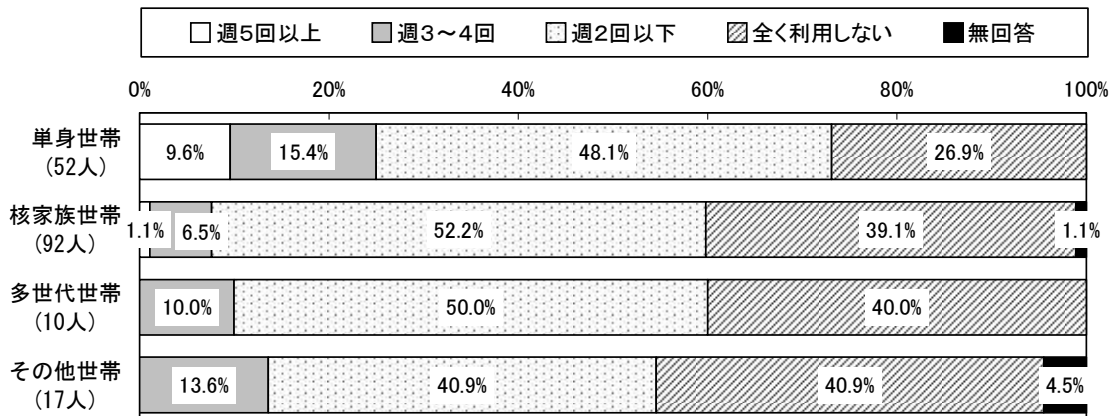


市販の惣菜や弁当を利用する頻度(年代別)



世帯構成別にみると、「週2回以下」は「その他世帯」が40.9%と最も低く、そのほかの世帯は50%程度の割合となります。「週5回以上」と「週3～4回」は「単身世帯」の割合が最も高くなります。「全く利用しない」は「単身世帯」が26.9%と最も低く、そのほかの世帯は40%程度の割合となります。

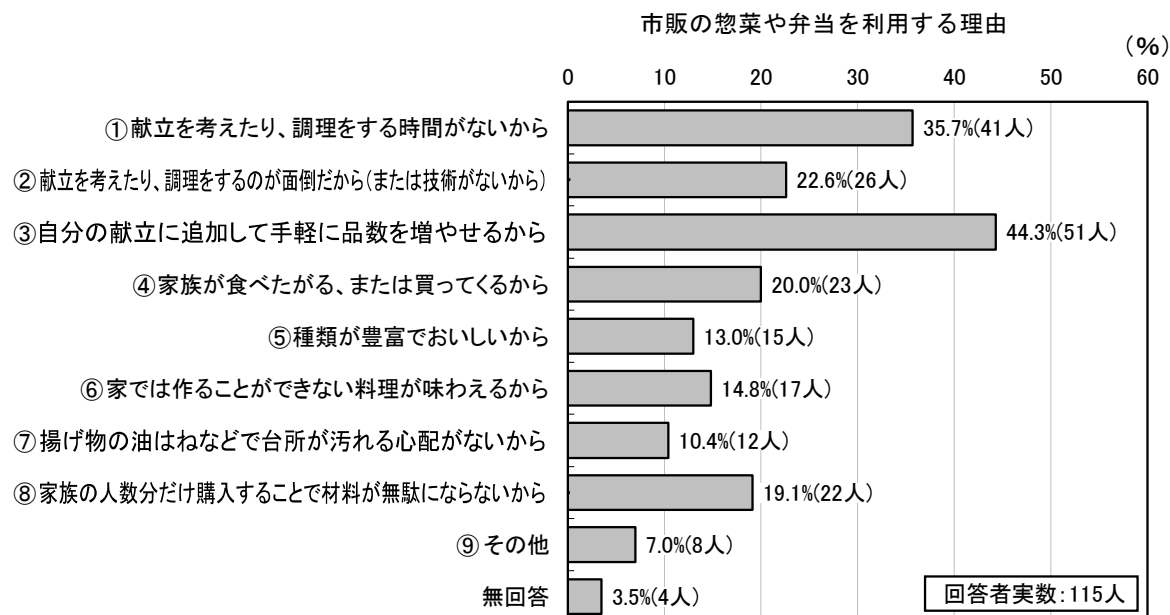
市販の惣菜や弁当を利用する頻度(世帯構成別)



(11) 市販の惣菜や弁当を利用する理由（複数回答）

問 11：問 10 で利用する「1.～3.」と回答した理由をお答えください。（○は 3 つまで）

前項で市販の惣菜や弁当を利用すると答えた方の、利用する理由としては、「③手軽に品数を増やせるから（略）」が 44.3%と最も高く、次に「①時間がないから（略）」が 35.7%、「②調理が面倒だから（略）」が 22.6%となります。



年代別にみると、「③手軽に品数を増やせるから（略）」は「20代」が 37.5%と最も低くなりますが、そのほかの年代は 40%台の割合で、特に年代による大きな違いはありません。

「①時間がないから（略）」は「40代」が 62.5%と最も高く、次に「60代」が 43.2%で、「20代」と「70代以上」が 10%程度と低くなります。

「②調理が面倒だから（略）」は「20代」が 50.0%と最も高く、次に「70代以上」が 36.8%で、「40代」と「60代」が 10%台と低くなります。

「④家族が食べたがる、または買ってくるから」は「50代」が 33.3%、「材料が無駄にならないから（略）」は「70代以上」が 31.6%と、それぞれ最も高くなります。

市販の惣菜や弁当を利用する理由(年代別)

	回答者実数	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	無回答
		献立を考えた り、調理をする 時間がないから	献立を考えた り、調理をする のが面倒だから (または技術が ないから)	自分の献立に 追加して手軽に 品数を増やせる から	家族が食べた がる、または買 ってくるから	種類が豊富で おいしいから	家では作ること ができない料理 が味わるから	揚げ物の油は ねなどで台所が 汚れる心配が ないから	家族の人数分 だけ購入する ことで材料が 無駄にならない から	その他	
20代	8人	12.5% (1人)	50.0% (4人)	37.5% (3人)	25.0% (2人)	12.5% (1人)	12.5% (1人)	12.5% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
30代	13人	30.8% (4人)	23.1% (3人)	46.2% (6人)	15.4% (2人)	0.0% (0人)	23.1% (3人)	7.7% (1人)	23.1% (3人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
40代	16人	62.5% (10人)	12.5% (2人)	43.8% (7人)	25.0% (4人)	6.3% (1人)	12.5% (2人)	18.8% (3人)	25.0% (4人)	12.5% (2人)	0.0% (0人)
50代	15人	33.3% (5人)	20.0% (3人)	40.0% (6人)	33.3% (5人)	13.3% (2人)	0.0% (0人)	6.7% (1人)	6.7% (1人)	0.0% (0人)	13.3% (2人)
60代	37人	43.2% (16人)	16.2% (6人)	43.2% (16人)	13.5% (5人)	10.8% (4人)	18.9% (7人)	8.1% (3人)	18.9% (7人)	13.5% (5人)	2.7% (1人)
70代以上	19人	10.5% (2人)	36.8% (7人)	47.4% (9人)	21.1% (4人)	31.6% (6人)	15.8% (3人)	10.5% (2人)	31.6% (6人)	0.0% (0人)	5.3% (1人)

仕事の有無別にみると、「①時間がないから(略)」は「仕事をしている」が42.7%、「仕事をしていない」が16.7%で、「仕事をしている」方が約2.6倍(26ポイント)高くなります。

一方、「③手軽に品数を増やせるから(略)」は「仕事をしていない」が63.6%、「仕事をしている」が36.0%で、「仕事をしていない」方が27.6ポイント高くなります。

また、「②調理が面倒だから(略)」、「④家族が食べたがる、または買ってくるから」、「⑤種類が豊富でおいしいから」、「⑦台所が汚れる心配がないから(略)」の4つの理由についても、「仕事をしていない」方の割合がそれぞれ4.0ポイント、9.4ポイント、17.4ポイント、10.0ポイント高くなります。

市販の惣菜や弁当を利用する理由(仕事の有無別)

	回答者実数	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	無回答
		ないから 献立を考えた り、調理をする 時間がないから	倒だから 献立を考えた り、調理をする のが面倒だから (または技術が ないから)	増やせるから 自分の献立に 追加して手軽に 品数を増やせる から	家族が食べた がる、または買 ってくるから	種類が豊富で おいしいから	家では作ること ができない料理 が味わるから	揚げ物の油は ねなどで台所が 汚れる心配が ないから	家族の人数分 だけ購入する ことで材料が 無駄にならない から	その他	
仕事をしている	75人	42.7% (32人)	22.7% (17人)	36.0% (27人)	17.3% (13人)	9.3% (7人)	12.0% (9人)	6.7% (5人)	17.3% (13人)	8.0% (6人)	4.0% (3人)
仕事をしていない	30人	16.7% (5人)	26.7% (8人)	63.3% (19人)	26.7% (8人)	26.7% (8人)	13.3% (4人)	16.7% (5人)	16.7% (5人)	6.7% (2人)	3.3% (1人)

世帯構成別にみると、「③手軽に品数を増やせるから（略）」は「核家族世帯」が50.9%と最も高く、そのほかの世帯は30%台の割合となります。

「①時間がないから（略）」は「その他世帯」が41.7%と最も高く、「単身世帯」が28.9%と最も低くなります。

「②調理が面倒だから（略）」は「単身世帯」が39.5%と最も高く、そのほかの世帯は10%台の割合となります。

「④家族が食べたがる、または買って来るから」は「核家族世帯」が32.7%と、他の世帯と比べてとりわけ高い割合となります。

「⑧材料が無駄にならないから（略）」は「その他世帯」と「単身世帯」が20%台と高くなります。

市販の惣菜や弁当を利用する理由(世帯構成別)

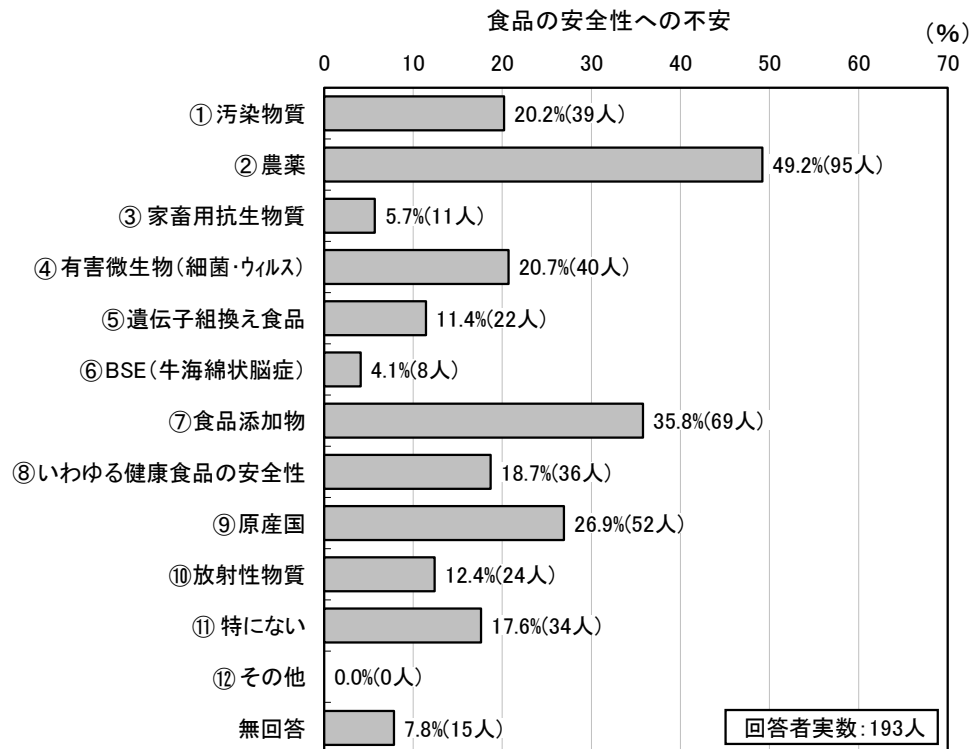
	回答者実数	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	無回答
		ないから 献立を考えたり、調理をする時間がないから	倒だから 献立を考えたり、調理をするのが面倒だから (または技術がないから)	増やせるから 自分の献立に追加して手軽に品数を増やせるから	るから 家族が食べたがる、または買って来るから	種類が豊富でおいしいから	わえるから 家では作ることができない料理が味	心配がないから 揚げ物の油はねなどで台所が汚れる	料が無駄にならないから 家族の人数分だけ購入することで材	その他	
単身世帯	38人	28.9% (11人)	39.5% (15人)	36.8% (14人)	5.3% (2人)	13.2% (5人)	15.8% (6人)	15.8% (6人)	23.7% (9人)	2.6% (1人)	5.3% (2人)
核家族世帯	55人	38.2% (21人)	12.7% (7人)	50.9% (28人)	32.7% (18人)	10.9% (6人)	12.7% (7人)	7.3% (4人)	14.5% (8人)	9.1% (5人)	1.8% (1人)
多世代世帯	6人	33.3% (2人)	16.7% (1人)	33.3% (2人)	0.0% (0人)	16.7% (1人)	16.7% (1人)	16.7% (1人)	16.7% (1人)	16.7% (1人)	0.0% (0人)
その他世帯	12人	41.7% (5人)	16.7% (2人)	33.3% (4人)	8.3% (1人)	16.7% (2人)	25.0% (3人)	8.3% (1人)	25.0% (3人)	8.3% (1人)	8.3% (1人)

(12) 食品の安全性への不安（複数回答）

問 12：食品の安全性について、あなたは不安に感じていることがありますか。あるとすれば、それは何ですか。（○は3つまで）

食品の安全性について不安を感じていることは、「②農薬」が 49.2%と最も高く、約半数を占め、次に「⑦食品添加物」が 35.8%、「⑨原産国」が 26.9%となります。また、「④有害微生物(細菌・ウイルス)」と「①汚染物質」も 20%程度と比較的高くなります。

一方、不安は「特にない」が 17.6%となります。



年代別にみると、「②農薬」はどの年代においても最も割合が高くなります。そのうち「50代」が61.5%と最も高く、次に「30代」が55.6%となります。また、「20代」が36.4%と最も低く、次に「40代」が40.9%となります。

「⑦食品添加物」は「30代」が50.0%と最も高く、次に「50代」が42.3%で、「20代」と「70代以上」が20%台と低い割合となります。

「⑨原産国」は「30代」から「50代」が40%程度と高く、「70代以上」が9.5%と最も低くなります。

食品の安全性への不安(年代別)

	回答者実数	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		汚染物質	農薬	家畜用抗生物質	有害微生物(細菌・ウイルス)	遺伝子組換え食品	BSE(牛海綿状脳症)	食品添加物
20代	11人	0.0% (0人)	36.4% (4人)	18.2% (2人)	18.2% (2人)	27.3% (3人)	0.0% (0人)	27.3% (3人)
30代	18人	16.7% (3人)	55.6% (10人)	16.7% (3人)	22.2% (4人)	5.6% (1人)	0.0% (0人)	50.0% (9人)
40代	22人	27.3% (6人)	40.9% (9人)	4.5% (1人)	31.8% (7人)	27.3% (6人)	18.2% (4人)	36.4% (8人)
50代	26人	19.2% (5人)	61.5% (16人)	0.0% (0人)	7.7% (2人)	19.2% (5人)	0.0% (0人)	42.3% (11人)
60代	59人	18.6% (11人)	50.8% (30人)	6.8% (4人)	16.9% (10人)	6.8% (4人)	3.4% (2人)	39.0% (23人)
70代以上	42人	23.8% (10人)	50.0% (21人)	2.4% (1人)	28.6% (12人)	2.4% (1人)	2.4% (1人)	23.8% (10人)

	回答者実数	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	無回答
		品の安全性 いわゆる健康食	原産国	放射性物質	特にない	その他	
20代	11人	0.0% (0人)	18.2% (2人)	9.1% (1人)	18.2% (2人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
30代	18人	11.1% (2人)	38.9% (7人)	11.1% (2人)	11.1% (2人)	0.0% (0人)	5.6% (1人)
40代	22人	22.7% (5人)	40.9% (9人)	22.7% (5人)	22.7% (5人)	0.0% (0人)	4.5% (1人)
50代	26人	15.4% (4人)	38.5% (10人)	11.5% (3人)	11.5% (3人)	0.0% (0人)	7.7% (2人)
60代	59人	20.3% (12人)	27.1% (16人)	10.2% (6人)	16.9% (10人)	0.0% (0人)	6.8% (4人)
70代以上	42人	19.0% (8人)	9.5% (4人)	11.9% (5人)	26.2% (11人)	0.0% (0人)	9.5% (4人)

世帯構成別にみると、「②農薬」はどの世帯においても最も割合が高くなります。そのうち「核家族世帯」が46.7%と最も低く、そのほかの世帯は50%程度の割合となります。

「⑦食品添加物」は「多世代世帯」が40.0%と最も高くなりますが、そのほかの世帯は30%台後半の割合で、特に世帯による大きな違いはありません。

「⑨原産国」は「核家族世帯」と「多世代世帯」が30%程度と高く、「単身世帯」が19.2%と最も低くなります。

食品の安全性への不安(世帯構成別)

	回答者実数	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		汚染物質	農薬	家畜用抗生物質	有害微生物(細菌・ウイルス)	遺伝子組換え食品	BSE(牛海綿状脳症)	食品添加物
単身世帯	52人	23.1% (12人)	50.0% (26人)	9.6% (5人)	13.5% (7人)	11.5% (6人)	1.9% (1人)	38.5% (20人)
核家族世帯	92人	21.7% (20人)	46.7% (43人)	5.4% (5人)	28.3% (26人)	12.0% (11人)	5.4% (5人)	35.9% (33人)
多世代世帯	10人	20.0% (2人)	50.0% (5人)	0.0% (0人)	30.0% (3人)	10.0% (1人)	0.0% (0人)	40.0% (4人)
その他世帯	22人	13.6% (3人)	54.5% (12人)	4.5% (1人)	13.6% (3人)	9.1% (2人)	0.0% (0人)	36.4% (8人)

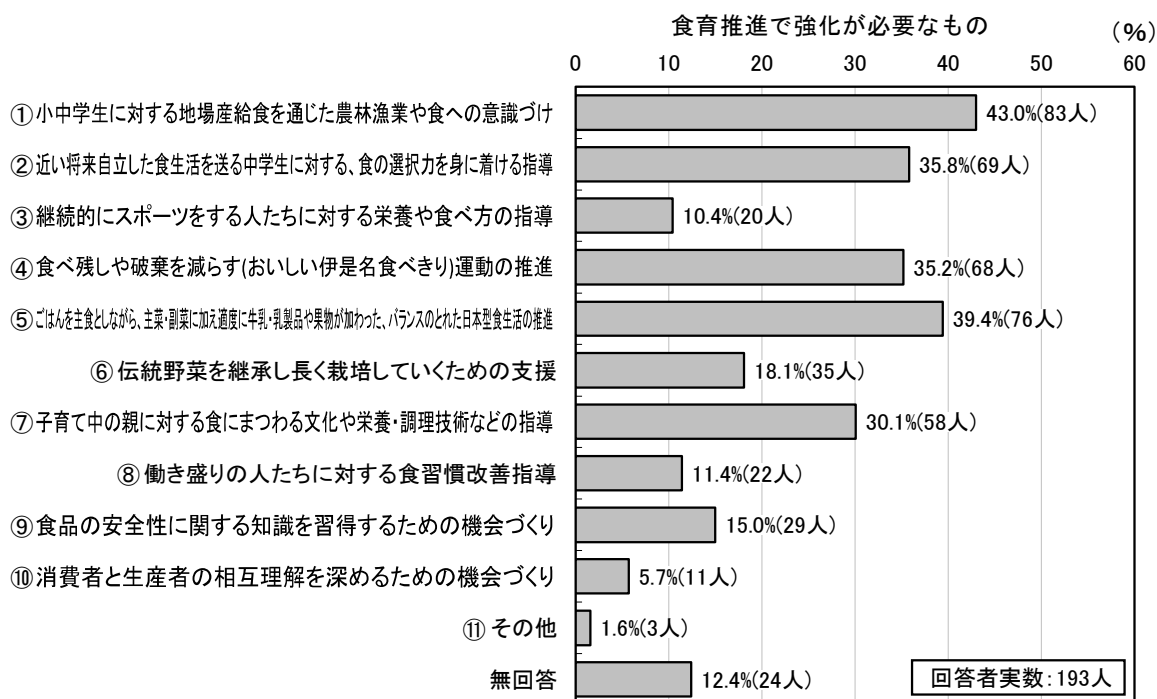
	回答者実数	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	無回答
		品の安全性 いわゆる健康食	原産国	放射性物質	特にない	その他	
単身世帯	52人	11.5% (6人)	19.2% (10人)	9.6% (5人)	25.0% (13人)	0.0% (0人)	3.8% (2人)
核家族世帯	92人	18.5% (17人)	33.7% (31人)	14.1% (13人)	20.7% (19人)	0.0% (0人)	5.4% (5人)
多世代世帯	10人	20.0% (2人)	30.0% (3人)	10.0% (1人)	10.0% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
その他世帯	22人	36.4% (8人)	22.7% (5人)	13.6% (3人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	13.6% (3人)

(13) 食育推進で強化が必要なもの（複数回答）

問 13：食育推進について、強化が必要だと考えるものは何ですか。また、下記項目以外に取組むべきことについて、その他の欄に御記入ください。（〇は3つまで）

食育の推進で強化が必要と考えているのは、「①小中学生に対する地場産給食（略）」が43.0%と最も高く、次に「⑤バランスのとれた日本型食生活の推進（略）」が39.4%となります。

また、「②中学生に対する、食の選択力を身に着ける指導（略）」が35.8%、「④食べ残しや破棄を減らす運動（略）」が35.2%、「⑦子育て中の親に対する食にまつわる文化等の指導（略）」が30.1%と比較的高くなります。



年代別にみると、「①小中学生に対する地場産給食（略）」は「30代」が61.1%と最も高く、次に「50代」が53.8%で、「70代以上」が38.1%と最も低くなります。「⑤バランスのとれた日本型食生活の推進（略）」は「60代」が50.8%と最も高く、次に「40代」が40.9%となります。また、「20代」が18.2%、「30代」が22.2%と低くなります。

「②中学生に対する食の選択力を身に着ける指導（略）」は「40代」が59.1%、「30代」が55.6%と高く、「20代」が18.2%と最も低くなります。

「④食べ残しや破棄を減らす運動（略）」は「40代」が45.5%、「60代」が40.7%と高く、「20代」と「30代」が27%台と低くなります。

「⑦子育て中の親に対する食にまつわる文化等の指導（略）」は「30代」が44.4%と最も高く、「40代」が18.2%、「70代以上」が21.4%と低くなります。

食育推進で強化が必要なもの（年代別）

	回答者実数	①	②	③	④	⑤	⑥
		小中学生に対する地場産給食を通じた農林漁業や食への意識づけ	近い将来自立した食生活を送る中学生に対する、食の選択力を身に着ける指導	継続的にスポーツをする人たちに対する栄養や食べ方の指導	食べ残しや破棄を減らす（おいしい伊是名食べきり運動）の推進	ごはんを主食としながら、主菜・副菜に加え適度に牛乳・乳製品や果物が加わった、バランスのとれた日本型食生活の推進	伝統野菜を継承し長く栽培していくための支援
20代	11人	45.5% (5人)	18.2% (2人)	27.3% (3人)	27.3% (3人)	18.2% (2人)	27.3% (3人)
30代	18人	61.1% (11人)	55.6% (10人)	11.1% (2人)	27.8% (5人)	22.2% (4人)	11.1% (2人)
40代	22人	45.5% (10人)	59.1% (13人)	9.1% (2人)	45.5% (10人)	40.9% (9人)	22.7% (5人)
50代	26人	53.8% (14人)	34.6% (9人)	3.8% (1人)	34.6% (9人)	38.5% (10人)	7.7% (2人)
60代	59人	40.7% (24人)	23.7% (14人)	13.6% (8人)	40.7% (24人)	50.8% (30人)	22.0% (13人)
70代以上	42人	38.1% (16人)	33.3% (14人)	7.1% (3人)	31.0% (13人)	35.7% (15人)	14.3% (6人)

	回答者実数	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	無回答
		子育て中の親に対する食にまつわる文化や栄養・調理技術などの指導	働き盛りの人たちに對する食習慣改善指導	食品の安全性に関する知識を習得するための機会づくり	消費者と生産者の相互理解を深めるための機会づくり	その他	
20代	11人	27.3% (3人)	9.1% (1人)	9.1% (1人)	9.1% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
30代	18人	44.4% (8人)	11.1% (2人)	16.7% (3人)	16.7% (3人)	0.0% (0人)	5.6% (1人)
40代	22人	18.2% (4人)	27.3% (6人)	9.1% (2人)	4.5% (1人)	0.0% (0人)	9.1% (2人)
50代	26人	38.5% (10人)	15.4% (4人)	19.2% (5人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	11.5% (3人)
60代	59人	32.2% (19人)	8.5% (5人)	13.6% (8人)	6.8% (4人)	1.7% (1人)	10.2% (6人)
70代以上	42人	21.4% (9人)	0.0% (0人)	16.7% (7人)	4.8% (2人)	4.8% (2人)	23.8% (10人)

世帯構成別にみると、「①小中学生に対する地場産給食（略）」、「⑤バランスのとれた日本型食生活の推進（略）」、「②中学生に対する食の選択力を身に着ける指導（略）」の3項目については、「多世代世帯」の割合が最も高く、「その他世帯」の割合が最も低くなります。

また、「④食べ残しや破棄を減らす運動（略）」は「核家族世帯」が最も高く、「多世代世帯」が10.0%と最も低くなります。

「⑦子育て中の親に対する食にまつわる文化等の指導（略）」は「単身世帯」が17.3%と最も低く、そのほかの世帯は30%台の割合となります。

食育推進で強化が必要なもの（世帯構成別）

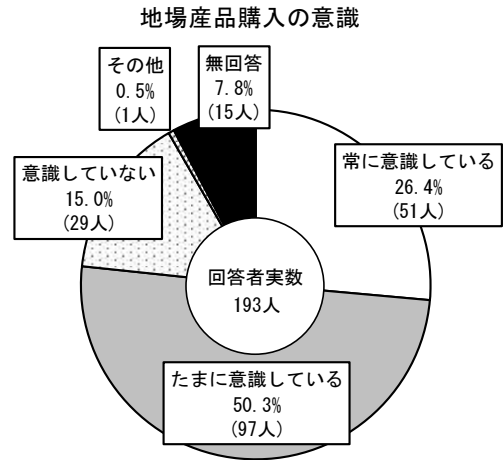
	回答者実数	①	②	③	④	⑤	⑥
		小中学生に対する地場産給食を通じた農林漁業や食への意識づけ	近い将来自立した食生活を送る中学生に対する、食の選択力を身に着ける指導	継続的にスポーツをする人たちに對する栄養や食べ方の指導	食べ残しや破棄を減らす（おいしい伊是名食べきり運動）の推進	ごはんを主食としながら、主菜・副菜に加え適度に牛乳・乳製品や果物が加わった、バランスのとれた日本型食生活の推進	伝統野菜を継承し長く栽培していくための支援
単身世帯	52人	38.5% (20人)	40.4% (21人)	11.5% (6人)	30.8% (16人)	40.4% (21人)	19.2% (10人)
核家族世帯	92人	48.9% (45人)	35.9% (33人)	8.7% (8人)	43.5% (40人)	41.3% (38人)	19.6% (18人)
多世代世帯	10人	70.0% (7人)	50.0% (5人)	20.0% (2人)	10.0% (1人)	50.0% (5人)	10.0% (1人)
その他世帯	22人	22.7% (5人)	18.2% (4人)	18.2% (4人)	36.4% (8人)	36.4% (8人)	18.2% (4人)

	回答者実数	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	無回答
		子育て中の親に對する食にまつわる文化や栄養・調理技術などの指導	働き盛りの人たちに對する食習慣改善指導	食品の安全性に関する知識を習得するための機会づくり	消費者と生産者の相互理解を深めるための機会づくり	その他	
単身世帯	52人	17.3% (9人)	11.5% (6人)	17.3% (9人)	3.8% (2人)	3.8% (2人)	13.5% (7人)
核家族世帯	92人	35.9% (33人)	12.0% (11人)	16.3% (15人)	7.6% (7人)	1.1% (1人)	5.4% (5人)
多世代世帯	10人	30.0% (3人)	10.0% (1人)	0.0% (0人)	10.0% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
その他世帯	22人	36.4% (8人)	9.1% (2人)	9.1% (2人)	4.5% (1人)	0.0% (0人)	27.3% (6人)

(14) 地場産品購入の意識

問 14：あなたは農林水産物や農産物加工品を購入する際、伊是名産農林水産物（以下「地場産品」という）であることを意識していますか。（○は1つ）

農林水産物や農産加工品を購入する際、地場産品であることを意識しているかについては、「たまに意識している」が50.3%と最も高く、次に「常に意識している」が26.4%で、「意識していない」は15.0%と1割余りとなります。

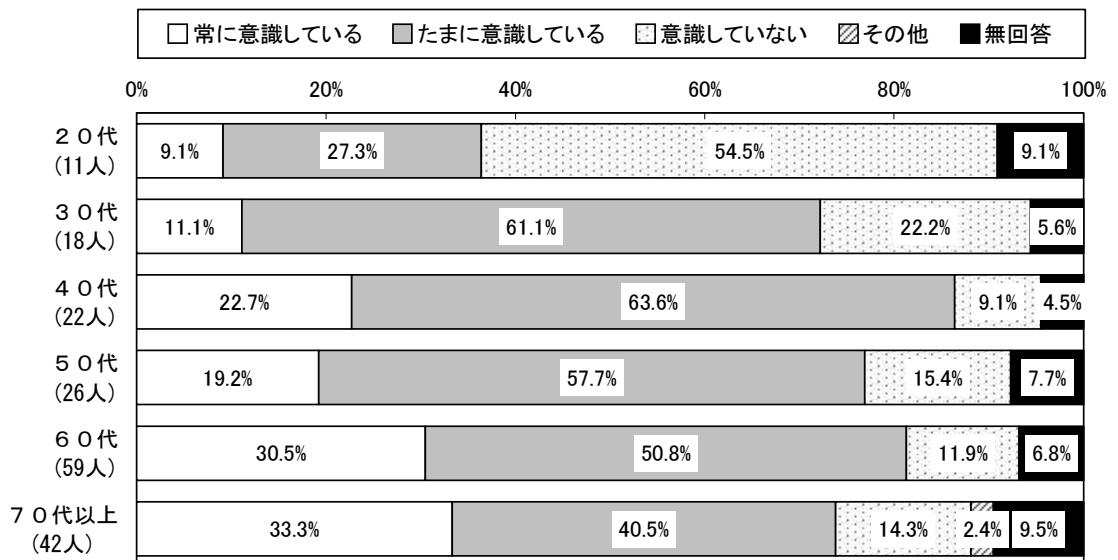


年代別にみると、「たまに意識している」は「20代」が27.3%と最も低く、「30代」と「40代」が60%余りと高くなります。また、「50代」以降年代が高いほど割合は低くなり、「70代以上」では40.5%となります。

「常に意識している」は「20代」が9.1%と最も低く、年代が高いほど割合も高くなる傾向にあり、「70代以上」では33.3%となります。

「意識していない」は「20代」が54.5%と最も高く、次に「30代」が22.2%で、そのほかの年代は10%台の割合となります。

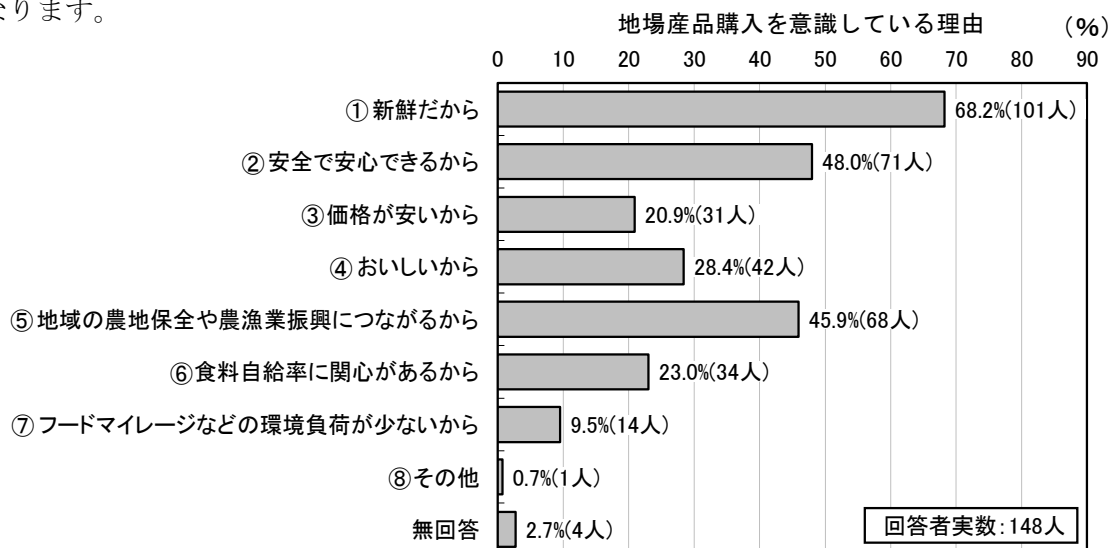
地場産品購入の意識（年代別）



(15) 地場産品購入を意識している理由（複数回答）

問 15：問 14 で、「1. 常に意識している」、または「2. たまに意識している」と回答した方にお聞きします。その理由は何ですか。（〇はいくつでも）

前項で、地場産品購入について「常に意識している」または「たまに意識している」と答えた方の、意識している理由については、「①新鮮だから」が 68.2%と最も高く、次に「②安全で安心できるから」が 48.0%、「⑤地域の農地保全や農漁業振興につながるから」が 45.9%となります。



年代別にみると、「①新鮮だから」は「30代」が 84.6%と最も高く、次に「50代」が 75.0%、「70代以上」が 74.2%で、「20代」が 50.0%と最も低くなります。

「②安全で安心できるから」は「70代以上」が 64.5%、「50代」が 60.0%と高く、「30代」が 15.4%と最も低くなります。

「⑤地域の農地保全や農漁業振興につながるから」は「40代」が 63.2%と最も高く、次に「60代」と「70代以上」が 45%台で、「20代」が 25.0%と最も低くなります。

地場産品購入を意識している理由（年代別）

	回答者実数	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	無回答
		新鮮だから	安全で安心できるから	価格が安いから	おいしいから	地域の農地保全や農漁業振興につながるから	食料自給率に関心があるから	フードマイレージなどの環境負荷が少ないから	その他	
20代	4人	50.0% (2人)	50.0% (2人)	50.0% (2人)	50.0% (2人)	25.0% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
30代	13人	84.6% (11人)	15.4% (2人)	30.8% (4人)	46.2% (6人)	38.5% (5人)	15.4% (2人)	7.7% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
40代	19人	63.2% (12人)	47.4% (9人)	21.1% (4人)	36.8% (7人)	63.2% (12人)	36.8% (7人)	10.5% (2人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
50代	20人	75.0% (15人)	60.0% (12人)	20.0% (4人)	40.0% (8人)	30.0% (6人)	20.0% (4人)	5.0% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
60代	48人	60.4% (29人)	39.6% (19人)	20.8% (10人)	22.9% (11人)	45.8% (22人)	12.5% (6人)	8.3% (4人)	0.0% (0人)	8.3% (4人)
70代以上	31人	74.2% (23人)	64.5% (20人)	16.1% (5人)	19.4% (6人)	45.2% (14人)	35.5% (11人)	16.1% (5人)	3.2% (1人)	0.0% (0人)

性別にみると、「②安全で安心できるから」と「⑦フードマイレージなどの環境負荷が少ないから」は男女による大きな違いはありません。一方、「⑤地域の農地保全や農漁業振興につながるから」は「男性」が53.8%、「女性」が40.0%で、「男性」が13.8ポイント高くなります。そのほかの理由については「女性」の割合が高く、中でも「④おいしいから」では「女性」が「男性」より27.3ポイント高くなります。また、「①新鮮だから」と「③価格が安いから」も、「女性」がそれぞれ14.1ポイント、12.4ポイント高くなります。

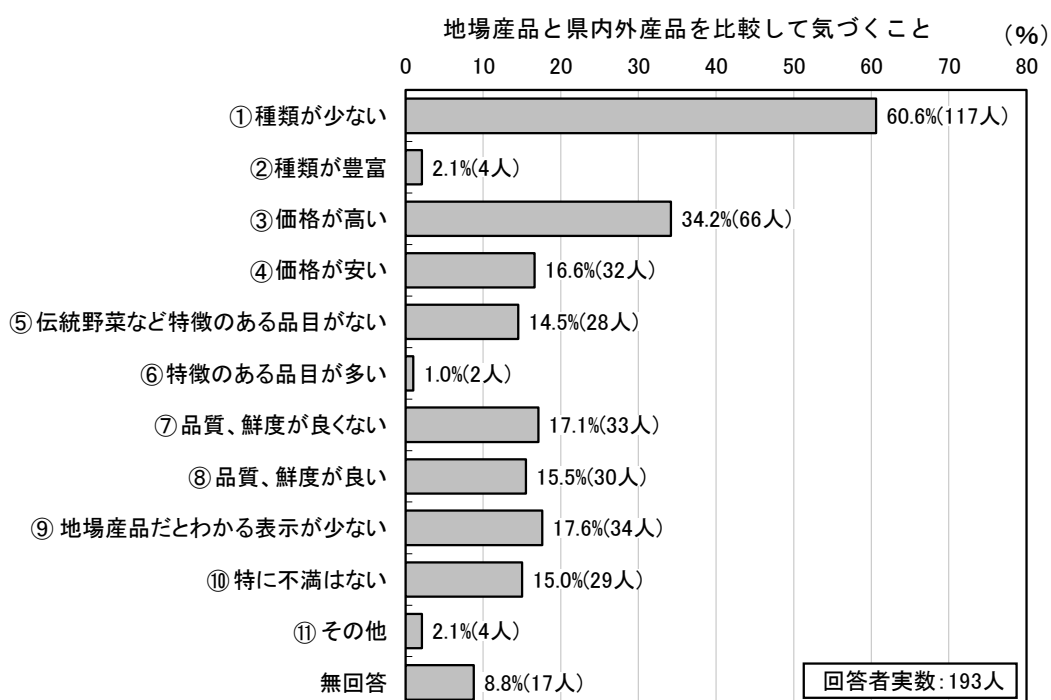
地場産品購入を意識している理由（性別）

	回答者実数	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	無回答
		新鮮だから	安全で安心できるから	価格が安いから	おいしいから	地域の農地保全や農漁業振興につながるから	食料自給率に関心があるから	フードマイレージなどの環境負荷が少ないから	その他	
男性	52人	57.7% (30人)	46.2% (24人)	13.5% (7人)	11.5% (6人)	53.8% (28人)	19.2% (10人)	9.6% (5人)	0.0% (0人)	5.8% (3人)
女性	85人	71.8% (61人)	48.2% (41人)	25.9% (22人)	38.8% (33人)	40.0% (34人)	25.9% (22人)	9.4% (8人)	1.2% (1人)	1.2% (1人)

(16) 地場産品と県内外産品を比較して気づくこと（複数回答）

問16：あなたが村内（スーパー・商店・売店等）で地場産品を購入する際、県内外産品と比較して気づくことはありますか。あるとすればそれは何ですか。（〇はいくつでも）

村内で地場産品を購入する際、県内外産品と比較して気づくことは、「①種類が少ない」が60.6%と最も高く、次に「③価格が高い」が34.2%で、そのほかの気になることについては、17.6%以下の割合となります。一方、「⑩特に不満はない」が15.0%となります。



年代別にみると、「①種類が少ない」はどの年代においても最も割合が高くなります。そのうち「50代」が73.1%と最も高く、次に「70代以上」が61.9%で、「20代」が45.5%と最も低くなります。

「③価格が高い」は「70代以上」が42.9%、「40代」が40.9%と高く、「20代」が18.2%と最も低くなります。

「④価格が安い」は「30代」が38.9%と最も高く、「40代」以降年代が高いほど割合は低くなり、「70代以上」では7.1%と最も低くなります。

一方、「⑩特に不満はない」は「70代以上」26.2%と最も高く、「40代」が9.1%、「50代」が7.7%と低くなります。

地場産品と県内外産品を比較して気づくこと（年代別）

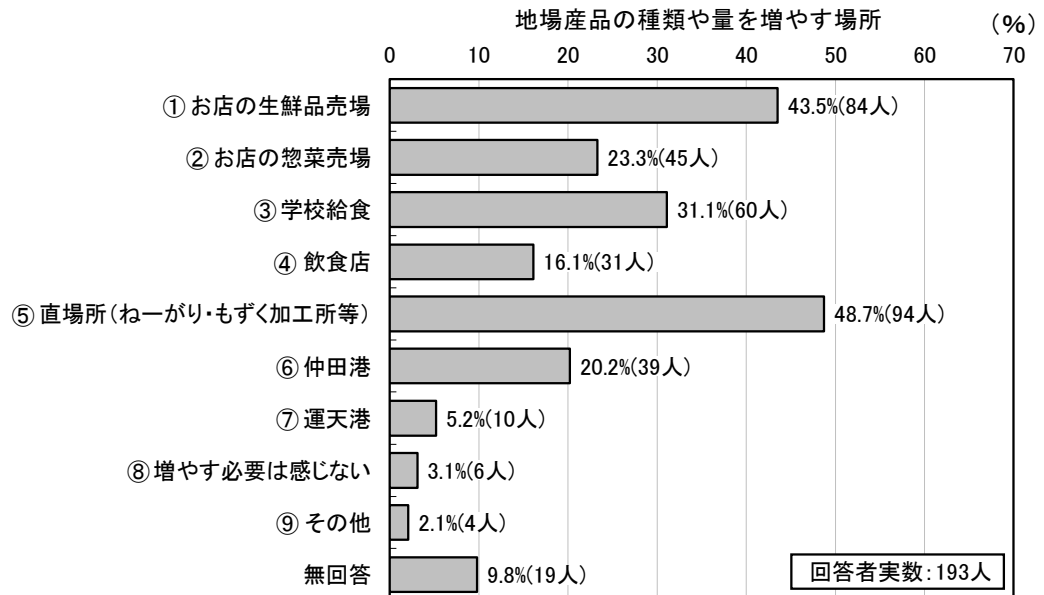
	回答者実数	①	②	③	④	⑤	⑥
		種類が少ない	種類が豊富	価格が高い	価格が安い	伝統野菜など特徴のある品目がない	特徴のある品目が多い
20代	11人	45.5% (5人)	9.1% (1人)	18.2% (2人)	18.2% (2人)	9.1% (1人)	0.0% (0人)
30代	18人	50.0% (9人)	5.6% (1人)	22.2% (4人)	38.9% (7人)	5.6% (1人)	0.0% (0人)
40代	22人	59.1% (13人)	0.0% (0人)	40.9% (9人)	31.8% (7人)	4.5% (1人)	4.5% (1人)
50代	26人	73.1% (19人)	0.0% (0人)	38.5% (10人)	19.2% (5人)	19.2% (5人)	0.0% (0人)
60代	59人	57.6% (34人)	1.7% (1人)	28.8% (17人)	11.9% (7人)	18.6% (11人)	0.0% (0人)
70代以上	42人	61.9% (26人)	2.4% (1人)	42.9% (18人)	7.1% (3人)	14.3% (6人)	2.4% (1人)

	回答者実数	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	無回答
		品質、鮮度が良くない	品質、鮮度が良い	地場産品だとわかる表示が少ない	特に不満はない	その他	
20代	11人	9.1% (1人)	9.1% (1人)	0.0% (0人)	18.2% (2人)	0.0% (0人)	18.2% (2人)
30代	18人	22.2% (4人)	33.3% (6人)	11.1% (2人)	11.1% (2人)	5.6% (1人)	11.1% (2人)
40代	22人	22.7% (5人)	18.2% (4人)	9.1% (2人)	9.1% (2人)	0.0% (0人)	4.5% (1人)
50代	26人	19.2% (5人)	15.4% (4人)	15.4% (4人)	7.7% (2人)	0.0% (0人)	7.7% (2人)
60代	59人	16.9% (10人)	11.9% (7人)	25.4% (15人)	13.6% (8人)	5.1% (3人)	10.2% (6人)
70代以上	42人	9.5% (4人)	16.7% (7人)	21.4% (9人)	26.2% (11人)	0.0% (0人)	7.1% (3人)

(17) 地場産品の種類や量を増やす場所（複数回答）

問 17：あなたは、販売・使用される地場産品の種類や量が今より増えた方が良いと考えますか。増えたとすれば、どこで増えるのが良いと思いますか。（〇は3つまで）

地場産品を増やすには、どこで増やしたら良いかについては、「⑤直場所（ねーがり・もずく加工所等）」が48.7%と最も高く、次に「①お店の生鮮品売場」が43.5%、「③学校給食」が31.1%となります。



年代別にみると、「⑤直場所(ねーがり・もずく加工所等)」は「40代」が63.6%と最も高く、次に「50代」が57.7%で、「20代」が27.3%と最も低くなります。

「①お店の生鮮品売場」についても「40代」が59.1%と最も高く、「20代」と「30代」が27%台と低くなります。そのほかの年代は40%台の割合となります。

「③学校給食」は「30代」が50.0%と最も高く、次に「50代」が42.3%で、「20代」が18.2%と最も低くなります。なお、「20代」については、「②お店の惣菜売場」以外の項目では最も割合が低くなります。

一方、「⑧増やす必要は感じない」は「20代」が18.2%と最も高くなります。

地場産品の種類や量を増やす場所（年代別）

	回答者実数	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	無回答
		お店の生鮮品売場	お店の惣菜売場	学校給食	飲食店	直場所(ねーがり・もずく加工所等)	仲田港	運天港	増やす必要は感じない	その他	
20代	11人	27.3% (3人)	27.3% (3人)	18.2% (2人)	9.1% (1人)	27.3% (3人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	18.2% (2人)	0.0% (0人)	18.2% (2人)
30代	18人	27.8% (5人)	27.8% (5人)	50.0% (9人)	16.7% (3人)	38.9% (7人)	22.2% (4人)	5.6% (1人)	5.6% (1人)	5.6% (1人)	5.6% (1人)
40代	22人	59.1% (13人)	13.6% (3人)	31.8% (7人)	27.3% (6人)	63.6% (14人)	22.7% (5人)	4.5% (1人)	4.5% (1人)	0.0% (0人)	9.1% (2人)
50代	26人	42.3% (11人)	11.5% (3人)	42.3% (11人)	11.5% (3人)	57.7% (15人)	23.1% (6人)	11.5% (3人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	11.5% (3人)
60代	59人	47.5% (28人)	25.4% (15人)	27.1% (16人)	15.3% (9人)	45.8% (27人)	16.9% (10人)	0.0% (0人)	3.4% (2人)	3.4% (2人)	10.2% (6人)
70代以上	42人	47.6% (20人)	33.3% (14人)	26.2% (11人)	9.5% (4人)	45.2% (19人)	21.4% (9人)	9.5% (4人)	0.0% (0人)	2.4% (1人)	7.1% (3人)

世帯構成別にみると、「⑤直場所(ねーがり・もずく加工所等)」は「核家族世帯」が57.6%、「多世代世帯」が50.0%と高く、「単身世帯」が34.6%と最も低くなります。

「①お店の生鮮品売場」は「単身世帯」が51.9%と最も高く、次に「核家族世帯」が46.7%、「多世代世帯」も40.0%と比較的高い割合となります。

「②お店の惣菜売場」と「③学校給食」は「多世代世帯」が40.0%、50.0%とそれぞれ最も高くなります。

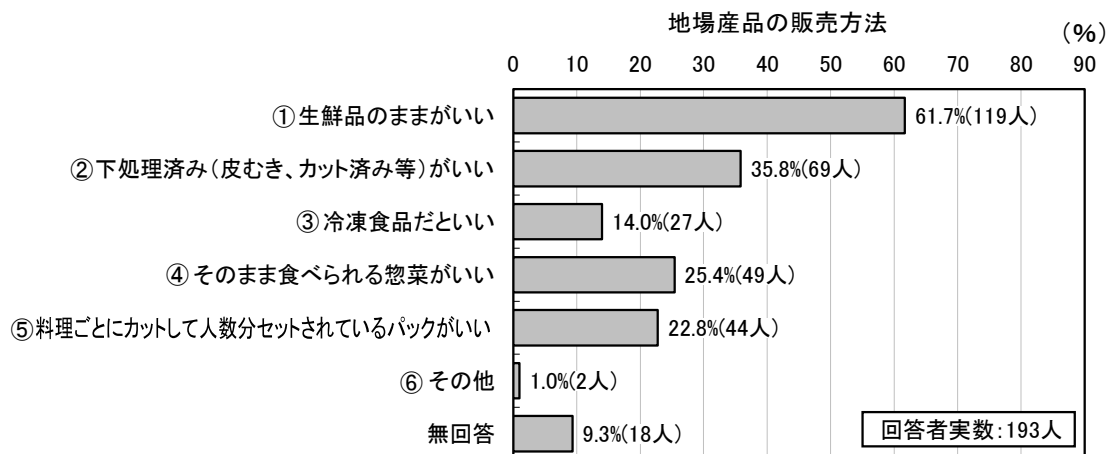
地場産品の種類や量を増やす場所（世帯構成別）

	回答者実数	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	無回答
		お店の生鮮品売場	お店の惣菜売場	学校給食	飲食店	直場所(ねーがり・もずく加工所等)	仲田港	運天港	増やす必要は感じない	その他	
単身世帯	52人	51.9% (27人)	36.5% (19人)	26.9% (14人)	11.5% (6人)	34.6% (18人)	26.9% (14人)	7.7% (4人)	1.9% (1人)	1.9% (1人)	5.8% (3人)
核家族世帯	92人	46.7% (43人)	17.4% (16人)	32.6% (30人)	19.6% (18人)	57.6% (53人)	16.3% (15人)	4.3% (4人)	2.2% (2人)	2.2% (2人)	6.5% (6人)
多世代世帯	10人	40.0% (4人)	40.0% (4人)	50.0% (5人)	10.0% (1人)	50.0% (5人)	20.0% (2人)	0.0% (0人)	10.0% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
その他世帯	22人	27.3% (6人)	18.2% (4人)	27.3% (6人)	13.6% (3人)	45.5% (10人)	18.2% (4人)	9.1% (2人)	9.1% (2人)	4.5% (1人)	18.2% (4人)

(18) 地場産品の販売方法（複数回答）

問 18：あなたは、地場産品がどのような形で販売されていると日々の食事に取り入れやすいと思いますか。（〇は3つまで）

地場産品を日々の食事に取り入れやすくするための販売方法については、「①生鮮品のままだいい」が61.7%と最も高く、次に「②下処理済み（皮むき、カット済み等）がいい」が35.8%、「④そのまま食べられる惣菜がいい」が25.4%となります。



年代別にみると、「①生鮮品のままだいい」は「50代」が73.1%と最も高く、次に「30代」が66.7%で、「20代」が45.5%と最も低くなります。また、「②下処理済み（皮むき・カット済み等）がいい」でも「50代」が53.8%と最も高く、次に「40代」が45.5%で、「20代」が18.2%と最も低くなります。

「④そのまま食べられる惣菜がいい」は「30代」が38.9%と最も高く、「20代」が9.1%、「50代」が7.7%と低くなります。

「⑤料理ごとにカットして人数分セットされているパックがいい」は「40代」、「60代」、「70代以上」が20%台と高くなります。

地場産品の販売方法（年代別）

	回答者実数	①	②	③	④	⑤	⑥	無回答
		生鮮品のままだいい	下処理済み(皮むき、カット済み等)がいい	冷凍食品だとい	そのまま食べられる惣菜がいい	料理ごとにカットして人数分セットされているパックがいい	その他	
20代	11人	45.5% (5人)	18.2% (2人)	18.2% (2人)	9.1% (1人)	18.2% (2人)	0.0% (0人)	18.2% (2人)
30代	18人	66.7% (12人)	38.9% (7人)	11.1% (2人)	38.9% (7人)	16.7% (3人)	0.0% (0人)	5.6% (1人)
40代	22人	59.1% (13人)	45.5% (10人)	13.6% (3人)	27.3% (6人)	27.3% (6人)	0.0% (0人)	4.5% (1人)
50代	26人	73.1% (19人)	53.8% (14人)	26.9% (7人)	7.7% (2人)	15.4% (4人)	0.0% (0人)	7.7% (2人)
60代	59人	61.0% (36人)	30.5% (18人)	6.8% (4人)	23.7% (14人)	25.4% (15人)	3.4% (2人)	10.2% (6人)
70代以上	42人	61.9% (26人)	35.7% (15人)	16.7% (7人)	33.3% (14人)	23.8% (10人)	0.0% (0人)	9.5% (4人)

世帯構成別にみると、「①生鮮品のままがいい」は「多世代世帯」が70.0%、「その他世帯」が68.2%と高く、「単身世帯」が55.8%と最も低くなります。

「②下処理済み(皮むき・カット済み等)がいい」は「その他世帯」が27.3%と最も低く、そのほかの世帯は40%程度の割合となります。

「④そのまま食べられる惣菜がいい」は「単身世帯」が40.4%と最も高く、「核家族世帯」が20.7%、「その他世帯」が18.2%と低くなります。

「⑤料理ごとにカットして人数分セットされているパックがいい」は「多世代世帯」が30.0%と最も高く、「その他世帯」が13.6%と最も低くなります。

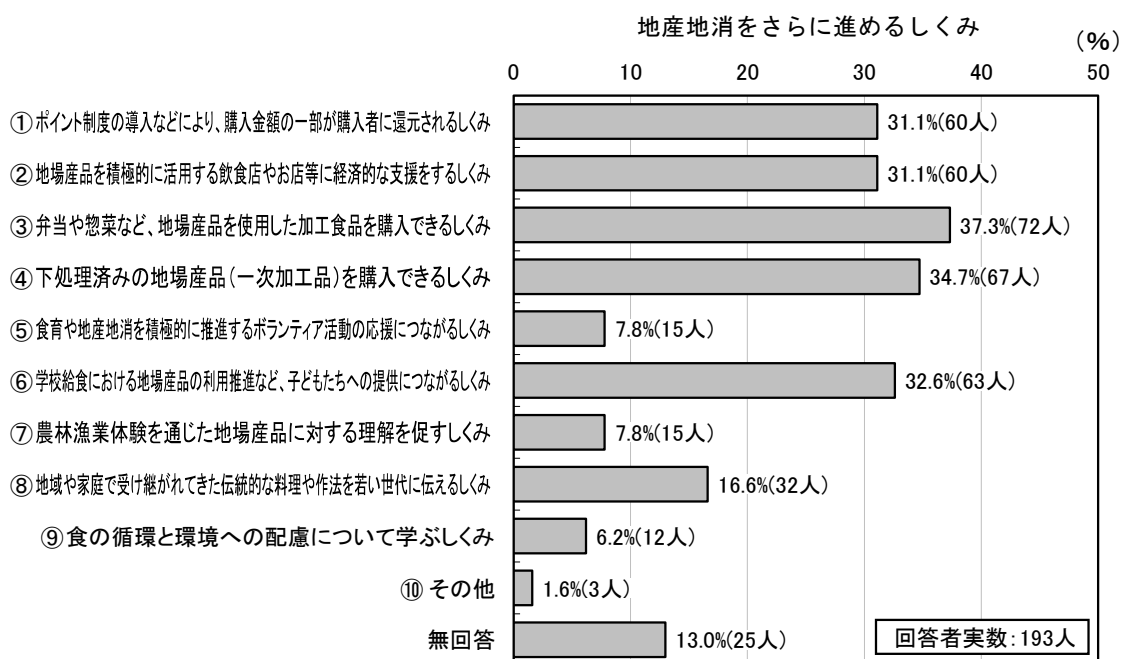
地場産品の販売方法（世帯構成別）

	回答者実数	①	②	③	④	⑤	⑥	無回答
		生鮮品のままがいい	下処理済み(皮むき、カット済み等)がいい	冷凍食品だとい	そのまま食べられる惣菜がいい	料理ごとにカットして人数分セットされているパックがいい	その他	
単身世帯	52人	55.8% (29人)	38.5% (20人)	17.3% (9人)	40.4% (21人)	23.1% (12人)	0.0% (0人)	3.8% (2人)
核家族世帯	92人	62.0% (57人)	39.1% (36人)	16.3% (15人)	20.7% (19人)	27.2% (25人)	1.1% (1人)	4.3% (4人)
多世代世帯	10人	70.0% (7人)	40.0% (4人)	0.0% (0人)	30.0% (3人)	30.0% (3人)	0.0% (0人)	10.0% (1人)
その他世帯	22人	68.2% (15人)	27.3% (6人)	4.5% (1人)	18.2% (4人)	13.6% (3人)	4.5% (1人)	27.3% (6人)

(19) 地産地消をさらに進めるしくみ（複数回答）

問 19：村では、地産地消をさらに進めるしくみを検討しています。どのようなしくみがあれば、地産地消が進むと考えますか。（○は3つまで）

地産地消をさらに進めるための仕組みについての考えとしては、「③地場産品の加工食品を購入できるしくみ（略）」が37.3%と最も高く、次に「④下処理済みの地場産品を購入できるしくみ」が34.7%となります。また、「⑥学校給食における地場産品の提供のしくみ（略）」が32.6%、「①購入金額の一部が購入者に還元されるしくみ（略）」と「②地場産品を活用する飲食店等への経済的支援のしくみ（略）」が31.1%となります。



年代別にみると、「③地場産品の加工食品を購入できるしくみ（略）」は「70代以上」が40.5%と最も高く、そのほかの年代は30%台の割合となります。

「④下処理済みの地場産品を購入できるしくみ（略）」は「40代」が40.9%と最も高く、「40代」を境に年代が高いほど、また、年代が若いほど割合は低く、「20代」が18.2%と最も低くなります。

「⑥学校給食における地場産品の提供のしくみ（略）」は「50代」が53.8%と最も高く、「20代」が18.2%と最も低くなります。また、「40代」と「50代」が45%台、「60代」と「70代以上」が27%程度となります。

「①購入金額の一部が購入者に還元されるしくみ（略）」は「20代」が36.4%と最も高く、「50代」以上も30%台の割合となります。

「②地場産品を活用する飲食店等への経済的支援のしくみ（略）」は「70代以上」が35.7%と最も高く、次に「40代」と「60代」も30%余りとなります。

地産地消をさらに進めるしくみ（年代別）

	回答者実数	①	②	③	④	⑤	⑥
		ポイント制度の導入などにより、購入金額の一部が購入者に還元されるしくみ	地場産品を積極的に活用する飲食店やお店等に経済的な支援をするしくみ	弁当や惣菜など、地場産品を使用した加工食品を購入できるしくみ	下処理済みの地場産品（一次加工品）を購入できるしくみ	食育や地産地消を積極的に推進するボランティア活動の応援につながるしくみ	学校給食における地場産品の利用推進など、子どもたちへの提供につながるしくみ
20代	11人	36.4% (4人)	27.3% (3人)	36.4% (4人)	18.2% (2人)	0.0% (0人)	18.2% (2人)
30代	18人	27.8% (5人)	27.8% (5人)	33.3% (6人)	27.8% (5人)	16.7% (3人)	44.4% (8人)
40代	22人	22.7% (5人)	31.8% (7人)	36.4% (8人)	40.9% (9人)	4.5% (1人)	45.5% (10人)
50代	26人	30.8% (8人)	23.1% (6人)	38.5% (10人)	38.5% (10人)	7.7% (2人)	53.8% (14人)
60代	59人	32.2% (19人)	32.2% (19人)	37.3% (22人)	35.6% (21人)	6.8% (4人)	27.1% (16人)
70代以上	42人	31.0% (13人)	35.7% (15人)	40.5% (17人)	33.3% (14人)	9.5% (4人)	26.2% (11人)

	回答者実数	⑦	⑧	⑨	⑩	無回答
		農林漁業体験を通じた地場産品に対する理解を促すしくみ	地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法を若い世代に伝えるしくみ	食の循環と環境への配慮について学ぶしくみ	その他	
20代	11人	0.0% (0人)	18.2% (2人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	27.3% (3人)
30代	18人	11.1% (2人)	5.6% (1人)	11.1% (2人)	0.0% (0人)	5.6% (1人)
40代	22人	13.6% (3人)	18.2% (4人)	13.6% (3人)	4.5% (1人)	9.1% (2人)
50代	26人	15.4% (4人)	15.4% (4人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	7.7% (2人)
60代	59人	3.4% (2人)	11.9% (7人)	5.1% (3人)	3.4% (2人)	13.6% (8人)
70代以上	42人	4.8% (2人)	21.4% (9人)	9.5% (4人)	0.0% (0人)	16.7% (7人)

3. 特産品・郷土料理について（自由記述）

(1) 村の既存の海産物・加工品で今後特産品として伸びそうな商品及び改善点等

問 20：本村の既存の海産物・加工品で今後特産品として伸びそうな商品は何だと思えますか。
または、改善した方がいい点等ありましたら教えて下さい。

■伸びそうな商品

商品名	件数
もずく	21
海ぶどう	8
アーサ	8
もずくキムチ	7
魚、貝類	4
もずくの佃煮	3
タコ(燻製含む)	3

商品名	件数
伊勢エビ	2
味噌(JA尚円みそ含む)	2
もずくチップス	1
もずく麺	1
イソアワモチ	1
いちご	1
ピーマン	1

商品名	件数
米	1
ハマグリ	1
アバサー	1
レタス	1
キャベツ	1
葉野菜	1

回答者実数：40人

■改善した方がいい点等

性別	年代	記述内容
男性	50代	安定的な原料の確保
男性	50代	改善したほうがいい商品：もずくの酢の物
男性	60代	加工品を増やす。消費者ニーズの掘り起こしが重要。
女性	20代	島でとれた魚の刺身や貝類をもっと手軽に購入できる様にしてもらいたい。みその食べ比べセットを作ると面白いと思う。
女性	30代	海の人たちがとても小さいのまでとるから、今後のエビの繁殖が心配。ちゃんと管理すべき
女性	40代	地元なのに新鮮なものが手に入りにくい
女性	40代	魚の養殖
女性	40代	もずくキムチの消費期限がもっと長かったら、もっと良いと思う
女性	40代	イチゴがお土産として喜ばれるので、イチゴ加工品があると嬉しい。
女性	40代	魚がなさすぎ。干物、塩漬けなどの加工品など鮮魚と合わせて地元産を買える努力がほしい。
女性	50代	もずく酢のパックは改良の余地があると思えます。イチゴが安定収穫できるようになれば伸びそう。
女性	50代	委託ではなく、伊是名で生産
女性	60代	もずくを使って加工品、魚のかまぼこ
女性	60代	需要があれば生鮮食品の販売が増えるが、島内産のものの方が新鮮が良いと思う。値段等の課題があるのか、需要がないのか、もっと地場産品にふれたいと思っているので、海産物が容易に購入可能になれば嬉しい。村外からの人にも島のものでもてなせる。
女性	70代以上	貝類、魚類、保存できるように干物、燻製等にする。
女性	不明	新たな商品開発
不明	60代	アーサやもずくを使った特産品を今後展開させることにより、発展につながると思う。

回答者実数：17人

(2) 村の既存の農産物・加工品(酒類等含む)で今後特産品として伸びそうな商品及び改善点等

問 21 : 本村の既存の農産物・加工品(酒類等含む)で今後特産品として伸びそうな商品は何だと思
いますか。または、改善した方がいい点等ありましたら教えてください。

■伸びそうな商品

商品名	件数
いちご	10
島酒	8
尚円みそ	4
いちごの加工品	3
パイパイ	3
もずく加工品	2
冬瓜	2
かぼちゃ	2
米	2
ジャム	2
さとうきび	2

商品名	件数
もずくキムチ	1
いちごのお酒	1
海産物	1
チーイリチー	1
玉ねぎ	1
海藻類	1
泡盛入りのチョコレート	1
紅芋	1
らっきょう	1
小豆	1
大豆(島大豆)	1

商品名	件数
ごま	1
麦	1
大根	1
ゴーヤー	1
オクラ	1
キャベツ	1
ブロッコリー	1
ピーマン	1
サラダ菜	1
人参	1

回答者実数 : 30 人

■改善した方がいい点等

性別	年代	記述内容
男性	40代	玉ねぎスープが見えなくなった気がします。玉ねぎの加工品が増えるといいと思います。
男性	50代	黒糖を少しでも作ってほしい
男性	60代	島内で二次加工する方法を考えてください。
女性	20代	酒でボジョレーワインみたいに、その年限定の記念ボトル(数量限定)を発売しても良いと思う。 魚や貝類の注文が気軽にできる窓口を作る。(予約販売や季節限定物)
女性	20代	パイパイ酵素が加工できたら豆類も作れるので、販売ルートを作る。
女性	30代	フルーツを増やした方がいいと思う。島バナナとかマンゴーなど(フルーツアイランド構想)
女性	30代	さとうきびを黒糖にして売ってほしい
女性	40代	尚円の里、金丸などの泡盛を高級品として希少なものとして売る。伊是名でできる果物を使ってリキュール
女性	40代	村民にはもっともとめやすい値段で!
女性	50代	委託ではなく、伊是名で生産
女性	70代以上	黒糖もあれば良いと思う
女性	70代以上	豆腐屋がぜひ一軒ほしい
女性	不明	J Aスーパー、ねーがり、漁業組合の海産物等が一か所で購入できる直売所ができたなら良いと思う。
女性	不明	新たな商品開発

回答者実数 : 14 人

(3) 今後特産品として伸びそうな新たな海産物・加工品並びに新商品のアイデア

問 22：あなたが思う今後特産品として伸びそうな新たな海産物・加工品は何だと思えますか。
または、あなたが思う新商品のアイデアはありますか。

■伸びそうな商品・新商品のアイデア

商品名	件数
干物	6
島ダコの燻製	3
アーサ	3
もずく	3
魚(グルクン等)のかまぼこ	3
乾燥もずく	2
海ぶどう	2
漬物	2
魚類の加工品	2
うに	1
イソアワモチ	1
イセエビせんべい	1
セーターせんべい	1
シガイせんべい	1

商品名	件数
グルクン	1
ティラジャー	1
ネムリブカの干物	1
伊平屋のナーガラスのようなもの	1
モズク麺	1
魚のみりん干し	1
魚のジャーキー	1
アバサー汁の冷凍パック	1
ハンゴミーパイの冷凍パック	1
もずくを原料とした加工品の開発	1
海産物	1
もずくスープ	1
イチゴワイン	1
イチゴのスイーツ	1

商品名	件数
しがいの加工品	1
もずくのせんべい	1
かまぼこ	1
伊勢エビ	1
イカキムチ	1
アヒル	1
カワハギの加工品	1
たこ焼き	1
ティラジャーの塩辛	1
スナー	1
貝加工品	1
もずく麺	1
魚の切り身(下処理済)	1
もずくようかん	1

回答者実数：39人

(4) 今後特産品として伸びそうな新たな農産物・加工品並びに新商品のアイデア

問 23：あなたが思う今後特産品として伸びそうな新たな農産物・加工品は何だと思えますか。
または、あなたが思う新商品のアイデアはありますか。

■伸びそうな商品・新商品のアイデア

商品名	件数
いちご	9
島野菜ドレッシング	5
ザラメ	3
イチゴジャム	2
かぼちゃスープ	2
イチゴを使用したお菓子	2
黒糖	2
たまねぎクッキー	1
いちごを使ったクッキー	1
野菜チップス	1
いちごの加工品	1
カットかぼちゃ、オクラ、大根、ネギなどの乾燥パック	1
オクラを湯通して、冷まして販売	1

商品名	件数
島大豆の豆腐	1
小麦粉	1
ハタカサ(数珠藻)	1
ゴーヤー	1
冷凍フライドオクラ	1
さとうきびアイス	1
いちごジェラート	1
たまねぎ	1
根菜の漬物	1
大根の千切り	1
大根	1
島米を使った麺類商品の強化(アレルギーにも対応できるため)	1
たまねぎソースで味付け真空パックされたチキンや魚	1

商品名	件数
オクラ	1
冬瓜	1
ピーマン	1
パパヤーシリシリー	1
もずくの天ぷら	1
カットかぼちゃ	1
クサギナ	1
ハーブ茶	1
玉ねぎを利用したの商品開発	1
かぼちゃ	1
冬瓜のきっぱん	1
さとうきびを使用したスイーツ	1
玉ねぎをチャツネにして真空パック	1

回答者実数：33人

(5) 本村の郷土料理

問 24：本村の郷土料理は何だと思えますか。

■本村の郷土料理

商品名	件数
アヒル汁	13
魚汁	9
ヤギ汁	9
シガイ	8
ソーキ汁	6
豚汁	6
もずく	5
ジューシー	4
中味汁	4

商品名	件数
アーサ	3
チーイリチャー	3
イカスミ	2
イソアワモチ	2
三枚肉の煮付け	1
黒糖アガラサー	1
パパイヤイリチー	1
ムーチー	1
ホーシイリチャー	1

商品名	件数
ぶんぶとくわのとうなあ炒め	1
ゴーヤーチャンプルー	1
伊勢エビ汁	1
冬瓜の煮物	1
かぼちゃスープ	1
エビの唐揚げ	1
てびち汁	1
玉ねぎドレッシング	1

回答者実数：48人

4. 食育・地産地消の推進についての意見（自由記述）

性別	年代	記述内容
男性	20代	いちごは幅広い商品展開が期待できるので、がんばってほしい。
男性	40代	食育・地産地消を推進するには、中学生達も交えた商品開発で意識も変わっていくと思います。新鮮なアイデアが生まれてくるかもしれません。
男性	50代	短期間でなく、長期間推進すること
男性	50代	地産地消推進協議会の発足
男性	60代	農産物加工品の開発に向けた取り組みを充実させてください。
男性	60代	先人達から伝えられた薬草、野菜を栽培し、健康食として村民、観光団に提供できるよう推進しては。海産物、特に島漁等の食できる、食堂などでいつでも食べられる専門の海産物屋を推進してはどうでしょうか。そのためには、漁師の漁料手取りも少々高くしてもいいのでは。
男性	70代以上	食のアレルギーが多い子どものことをよく耳にします。幼少期から地産の食材を多く取り入れた食事で防ぐことができるような気がします。
女性	30代	島の人が昔食べていたものや行事のときの料理などが知りたい。
女性	30代	栄養士さんのアイデアで今回2月号の広報のようにレシピを発信してほしいです～！
女性	30代	公民館等で料理教室があったら嬉しいです。
女性	40代	野菜、果物、魚（海ぶどう、もずく）、米、小麦、酒、いいものはたくさんそろっています。飲食店もお土産もアイデアを出せば、売れるものが作れると思うので、専門の方にアドバイスをもらうとか、島でも活躍されている太陽食堂、島の風の納戸さんから色々教えてもらうのもいいと思います。（パッケージ、パンフレットなどセンスもいい）お料理上手な方もたくさんいるのでそういった方々に飲食店をお願いする。（場所代など安く！！観光客の方が飲食店少ないと嘆いています）
女性	40代	毎週土曜の朝市を開いて、島の新鮮な魚や野菜を売るなどとして、島の魚を買える場所があれば、島の活性化につながると思う
女性	40代	カモは村内でとれたら食べたい
女性	50代	コンビニなどと共同開発しているものでよくみかけるのは、おにぎりやパスタ、スイーツ(プリン)等、パン類が多いので、そういう試作品を作る場(講習会)があればいいと思います。
女性	50代	もずく、魚など、とれたての新鮮な物があるが、販売(買える場所)がないですねー。地場産品を使って商品開発して、観光客に購入してもらえらる仕組みがあればいいと思います。何かできそう！

性別	年代	記述内容
女性	60代	キムチもずくが値段的にも買いやすく、お土産にも家でも使いやすいです。カマボコ等、海産物として常時あればいい。(伊是名は海のイメージがあるので、買いやすい海産物がほしい)
女性	60代	がんばってください
女性	60代	伊是名村でしかないものを作る。アンケートより部落等に来て声を聞いたらいいのに。
女性	60代	海に囲まれた島だけど、いつでも求められる魚類が少ない。
女性	70代以上	ヤギを大量に飼育し、屠殺権も取るようにし、いつでもヤギ肉が購入できる体制になれば、需要が増し、もっとジビエ料理が人気になり、島起こしの鍵になるのでは。期待しています。海産物の直売店は必要です。豚、ヤギ、アヒル等(昔飼育していたアイガモもいいのでは)
女性	70代以上	加工場所の支援があれば、特産品を商品化する専門グループを位置づけ、島産のお土産品を生み出す仕組みにつながると思う。
不明	30代	ヤギ汁、牛汁、あひる汁、イカ汁などの伊是名産レトルトパウチがあると食べてみたいです。
不明	60代	豚や山羊の家畜生産者は数名いるが、島内でさばける所(衛生的)を新たに作ることで、地場産で市場に出回ることもありだと思ふ。
不明	60代	魚汁、イカ汁
不明	60代	食の安全・安心のできる生産物を
不明	70代以上	観光客、地元住民がいつでも海の幸にありつけるような店があつてほしい(例:小分けにした刺身、買ったらすばいてくれる、そこで海の幸の料理が食べられる等)

Ⅲ 児童生徒の保護者向け調査結果の報告

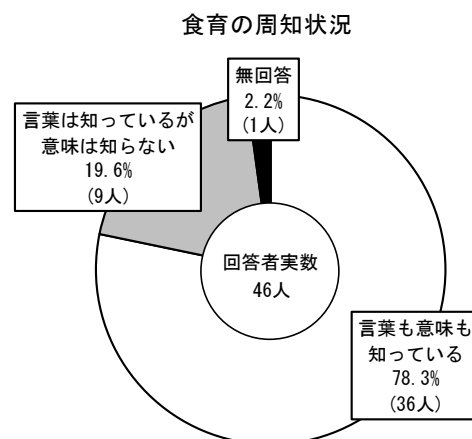
1. 食育の周知と普段の食事について

(1) 食育の周知状況

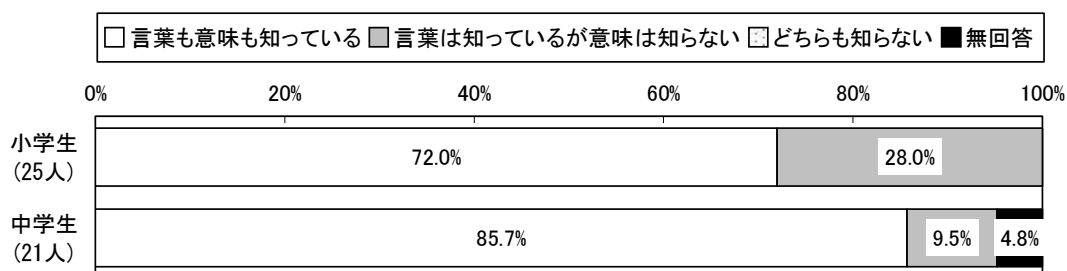
問1: 「食育」という言葉や意味を知っていますか。

「食育」という言葉や意味については、「言葉も意味も知っている」が78.3%と8割近くを占めます。また、「言葉は知っているが意味は知らない」が19.6%となります。

小・中学生別にみると、「言葉も意味も知っている」は「中学生」が85.7%、「小学生」が72.0%で、「中学生」が13.7ポイント高くなります。



食育の周知状況 (小・中学生別)

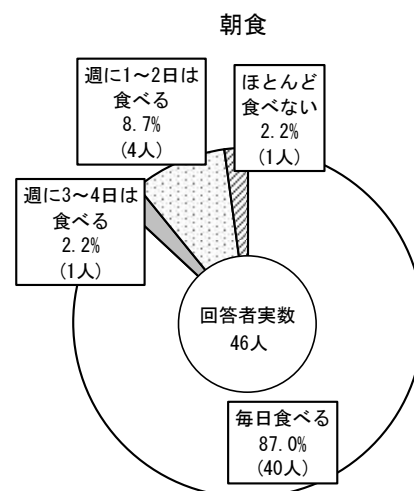


(2) 朝食

問2: 毎日朝食を食べますか。

朝食については、「毎日食べる」が87.0%と大半を占めます。

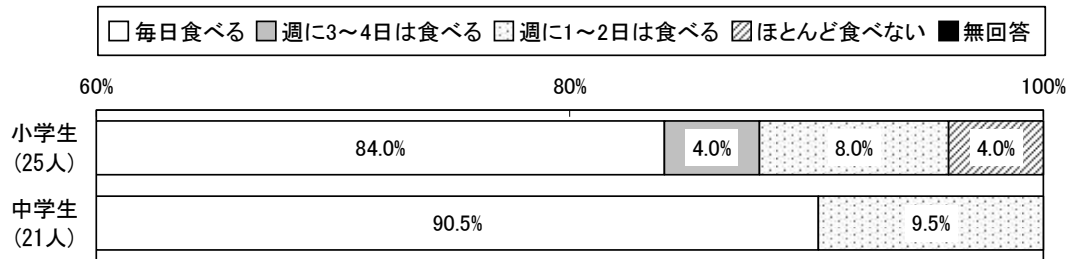
一方、「週に1~2日は食べる」が8.7%、「週に3~4日は食べる」が2.2%で、「ほとんど食べない」が2.2%となります。



小・中学生別にみると、「毎日食べる」は「中学生」が90.5%、「小学生」が84.0%で、「中学生」が6.5ポイント高くなります。

なお、「ほとんど食べない」と答えたのは「小学生」のみで4.0%となります。

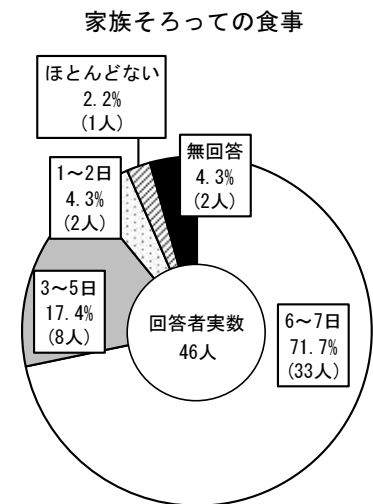
朝食（小・中学生別）



(3) 家族そろっての食事

問3：家族そろって食事をする日は週に何日くらいありますか。

家族そろって食事をする週の日数は、「6~7日」が71.7%と7割余りを占め、次に「3~5日」が17.4%となります。一方、「ほとんどない」が2.2%となります。

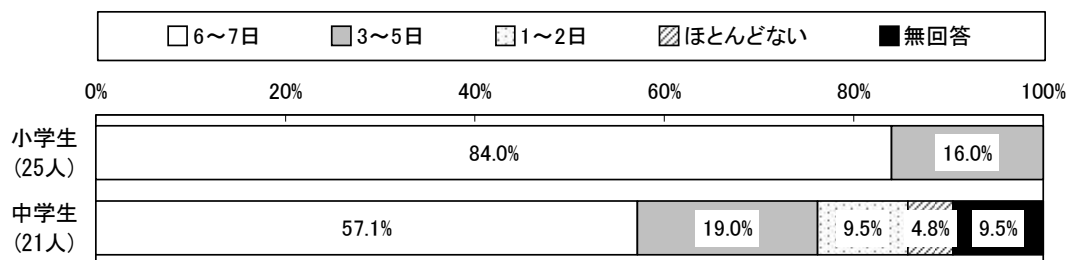


小・中学生別にみると、「6~7日」は「小学生」が84.0%、「中学生」が57.1%と、「小学生」が26.9ポイント高くなります。なお、「小学生」は「3~5日」が16.0%で、「1~2日」と「ほとんどない」の回答はありません。

一方、「中学生」は「3~5日」が19.0%、「1~2日」が9.5%、「ほとんどない」が4.8%となります。また、「無回答」が9.5%あります。

中学生は、小学生に比べて家族とそろって食事をする頻度が少ない子が多い傾向にあります。

家族そろっての食事（小・中学生別）



(4) 野菜のおかずを食べること

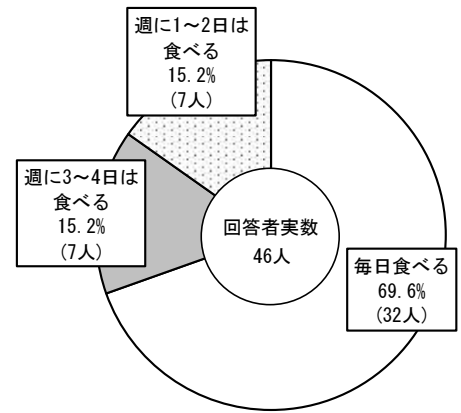
問4：あなたの家では毎日野菜のおかずを食べますか。

家庭において野菜のおかずを食べることは、「毎日」が69.6%と約7割を占め、「週に3～4日は食べる」と「週に1～2日は食べる」が15.2%となります。

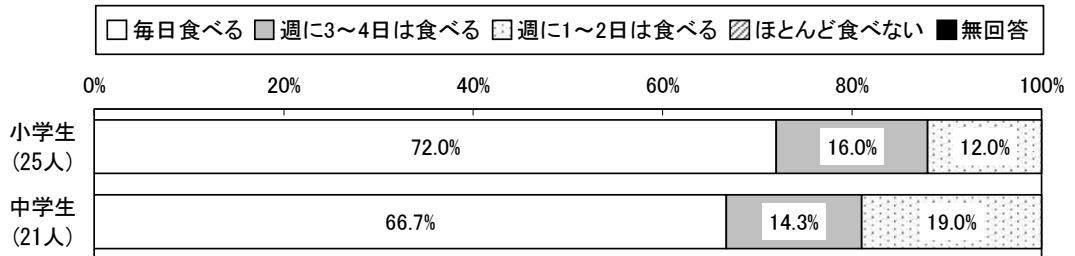
小・中学生別にみると、「毎日食べる」は「小学生」が72.0%、「中学生」が66.7%で、「小学生」が5.3ポイント高くなります。

一方、「週に1～2日は食べる」は「中学生」が19.0%、「小学生」が12.0%で、「中学生」が7ポイント高くなります。

野菜のおかずを食べること



野菜のおかずを食べること（小・中学生別）



(5) 魚を食べること

問5：あなたの家ではどのくらい魚を食べますか。

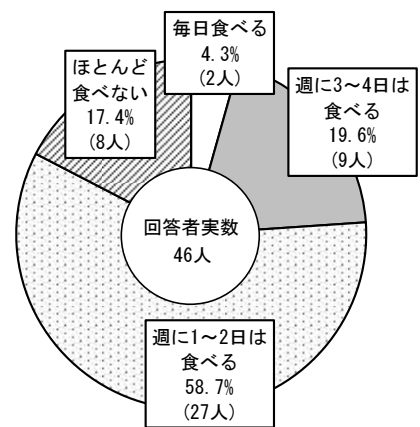
家庭において魚を食べることは、「週に1～2日は食べる」が58.7%と約6割を占め、次に「週に3～4日は食べる」が19.6%、「ほとんど食べない」が17.4%となります。

小・中学生別にみると、「週に1～2日は食べる」は「小学生」が68.0%、「中学生」が47.6%で、「小学生」が20.4ポイント高くなります。

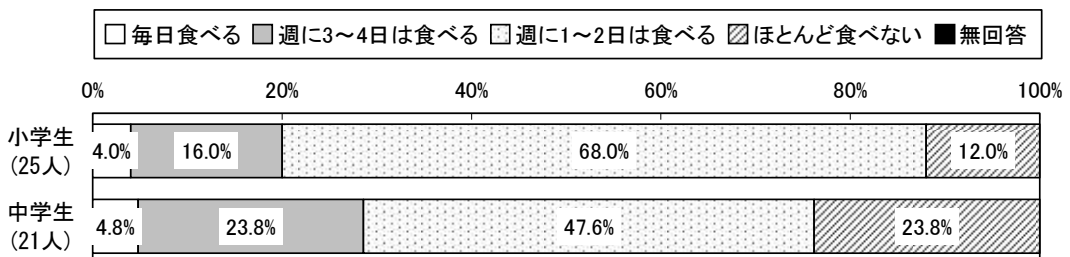
一方、「週に3～4日は食べる」、「ほとんど食べない」の割合は「中学生」がそれぞれ7.8ポイント、11.8ポイント高くなります。

「毎日食べる」は「小学生」、「中学生」とも4%程度の割合となります。

魚を食べること



魚を食べること（小・中学生別）

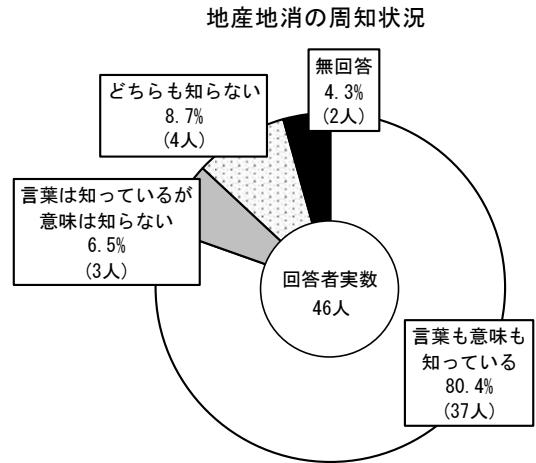


2. 地産地消について

(1) 地産地消の周知状況

問6：「地産地消」という言葉や意味を知っていますか。

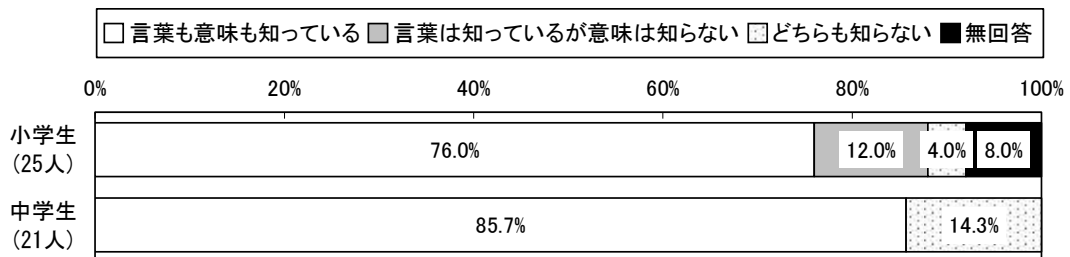
地産地消については、「言葉も意味も知っている」が80.4%とほとんどを占めます。一方、言葉も意味も「どちらも知らない」が8.7%、「言葉は知っているが意味は知らない」が6.5%となります。



小・中学生別にみると、「言葉も意味も知っている」は「中学生」が85.7%、「小学生」が76.0%で、「中学生」が9.7ポイント高くなります。

また、言葉も意味も「どちらも知らない」も「中学生」が10.3ポイント高くなります。一方、「言葉は知っているが意味は知らない」の回答があるのは、「小学生」の保護者だけです。

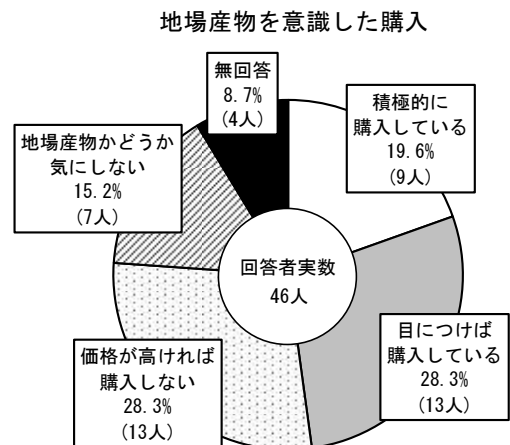
地産地消の周知状況（小・中学生別）



(2) 地場産物を意識した購入

問7：地場産物を意識して購入していますか。

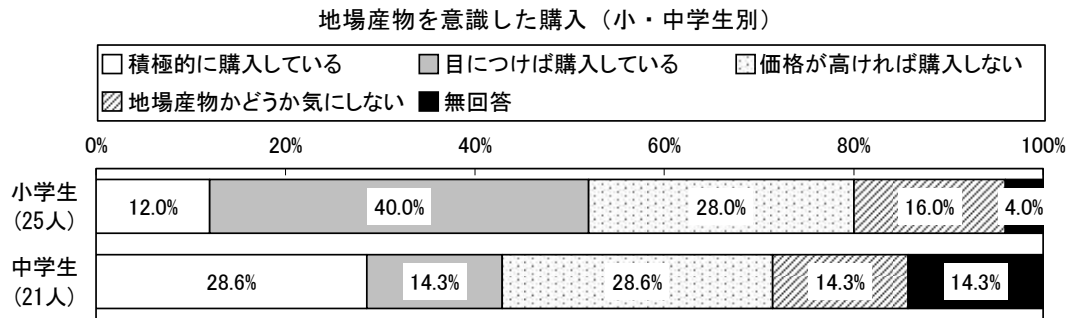
地場産物を意識して購入しているかについては、「目につけば購入している」と「価格が高ければ購入しない」が28.3%と最も高く、次に「積極的に購入している」が19.6%、「地場産物かどうか気にしない」が15.2%となります。



小・中学生別にみると、「積極的に購入している」は「中学生」が28.6%、「小学生」が12.0%で、「中学生」が倍以上高い割合となります。

一方、「目につけば購入している」は「小学生」が40.0%、「中学生」が14.3%で、「小学生」が3倍程度高い割合となります。

そのほかの項目については、「小学生」、「中学生」で大きな違いはありませんが、「無回答」の割合は「中学生」が14.3%で、「小学生」の4.0%と比べて10ポイント程度高くなります。



3. 沖縄の郷土料理について

(1) 知っている郷土料理

問8(1)：この中でどんな料理か知っているものはいくつありますか(20種類中)。

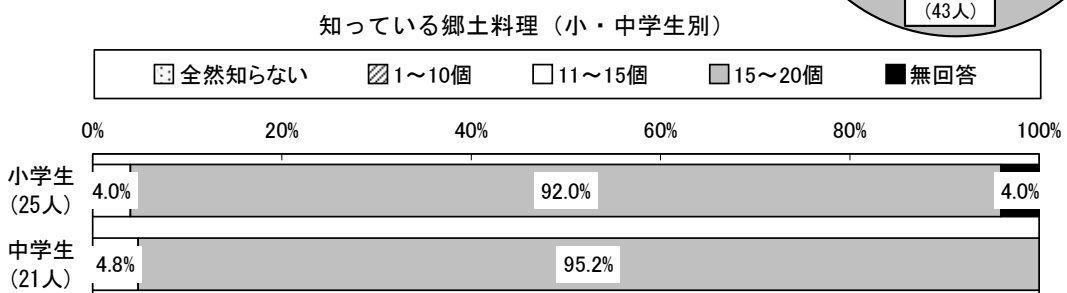
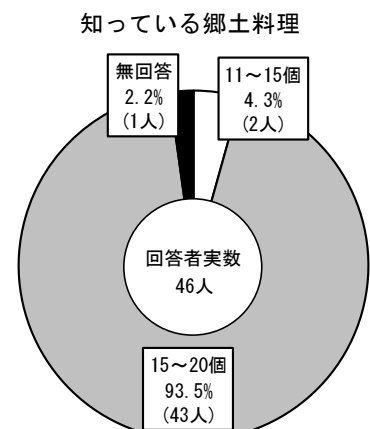
◎沖縄の郷土料理

- ・カーサームーチ
- ・ラフテー
- ・ミミガーさしみ
- ・中身汁
- ・クーバイリチー
- ・とうがん汁
- ・ヤギ汁
- ・ゴーヤチャンプルー
- ・パイパイリチー
- ・チーイリチー(豚の血炒め)
- ・ナーベラーンブシー(へちまの味噌炒め)
- ・ソーキ汁
- ・アーサ汁
- ・もずく酢
- ・ジーマーミ豆腐
- ・にんじんしりしり
- ・イナムドゥチ
- ・クファージュシー(豚三枚肉を使った炊き込みご飯)
- ・イカスミ汁
- ・スマイルチャ(イカスミ炒め)

上記20種類の沖縄の郷土料理で知っているものの数(種類)としては、「15～20個」が93.5%で、郷土料理を少なくとも15種類以上知っている保護者がほとんどを占めます。

次に「11～15個」が4.3%で、10種類以下の回答はありません。

小・中学生別にみても、知っている郷土料理の数の割合に大きな違いはありません。



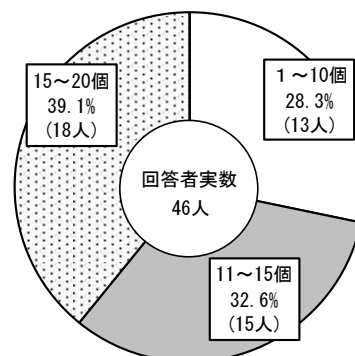
(2) 作り方を知っている沖縄の郷土料理

問 8(2)：作り方で知っているのはいくつありますか。

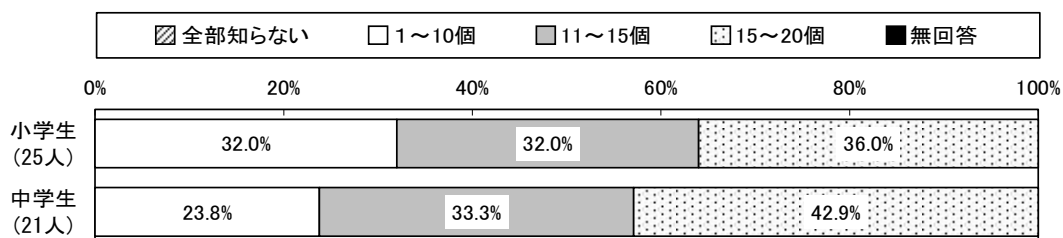
前項の 20 種類の郷土料理のうち、作り方で知っているのは、「15～20 個」が 39.1%と最も高く、約 4 割を占めます。次に「11～15 個」が 32.6%、「1～10 個」が 28.3% となります。

小・中学生別にみると、「15～20 個」は「中学生」が 42.9%、「小学生」が 36.0%で、「中学生」が 6.9 ポイント高くなります。一方、「1～10 個」は「小学生」が 32.0%、「中学生」が 23.8%で、「小学生」が 8.2 ポイント高くなります。「11～15 個」の割合は小・中学生とも 30%余りで大きな違いはありません。

作り方を知っている沖縄の郷土料理



作り方を知っている沖縄の郷土料理（小・中学生別）



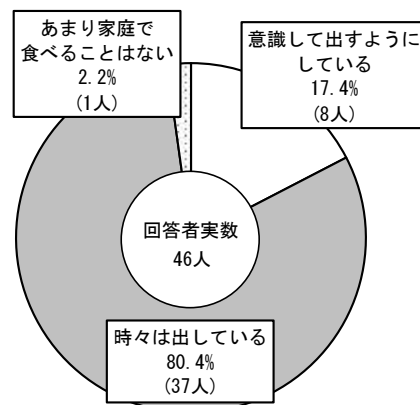
(3) 郷土料理・伝統食を食卓に出すこと

問 9：沖縄の郷土料理や地域・家庭に伝わる伝統食を意識して食卓に出していますか。

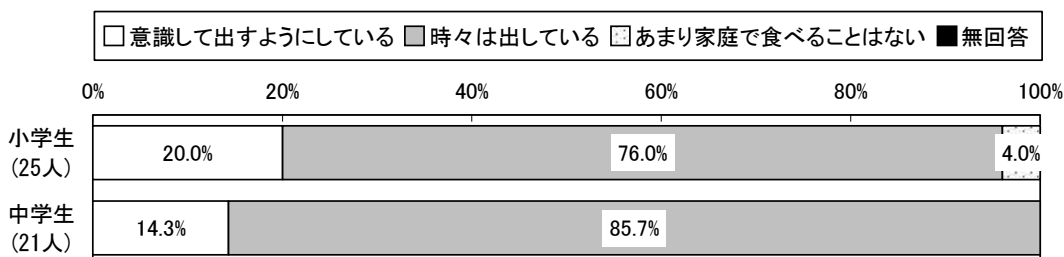
沖縄の郷土料理や地域・家庭に伝わる伝統食を食卓に出すことについては、「時々は出している」が 80.4%と大半を占め、「意識して出すようにしている」が 17.4%となります。

小・中学生別にみると、「時々は出している」は「中学生」が 85.7%、「小学生」が 76.0%で、「中学生」が 9.7 ポイント高くなります。また、「意識して出すようにしている」は「小学生」が 20.0%、「中学生」が 14.3%で、「小学生」が 5.7 ポイント高くなります。

郷土料理・伝統食を食卓に出すこと



郷土料理・伝統食を食卓に出すこと（小・中学生別）

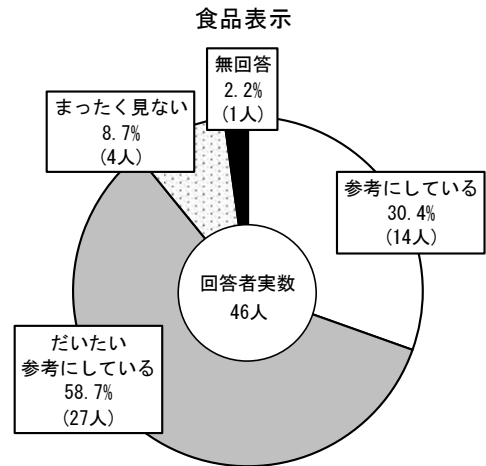


4. 食に対する意識等について

(1) 食品表示

問 10：食の安全について食品表示を参考にしていますか。

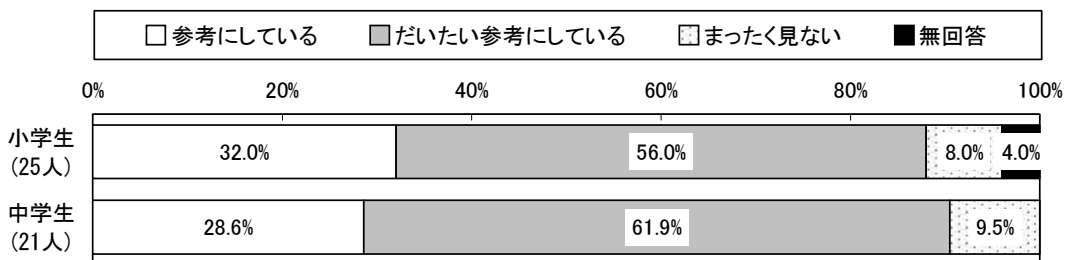
食の安全のために食品表示を参考にしているかについては、「だいたい参考にしている」が 58.7% と約 6 割を占め、次に「参考にしている」が 30.4% と 3 割を占めます。一方、「まったく見ない」が 8.7% となります。



小・中学生別にみると、「だいたい参考にしている」は「中学生」が 61.9%、「小学生」が 56.0% で、「中学生」が 5.9 ポイント高くなります。

一方、「参考にしている」は「小学生」が 32.0%、「中学生」が 28.6% で、「小学生」が 3.4 ポイントとやや高くなります。「まったく見ない」は小・中学生による大きな違いはありません。

食品表示（小・中学生別）

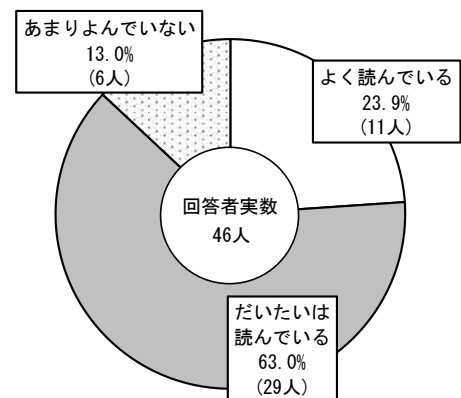


(2) 給食センターの献立表やセンター便り

問 11：学校給食センターから出されている献立表やセンター便りを読んでいますか。

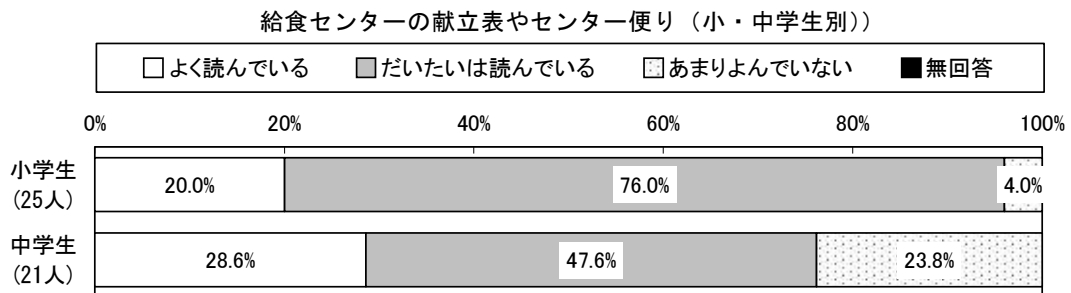
学校給食センターの献立表やセンター便りを読むことについては、「だいたいは読んでいる」が 63.0% と 6 割余りを占め、「よく読んでいる」が 23.9% と 2 割余りを占めます。また、「あまりよんでいない」が 13.0% と 1 割余りとなります。

給食センターの献立表やセンター便り



小・中学生別にみると、「だいたいは読んでいる」は「小学生」が76.0%、「中学生」が47.6%で、「小学生」が28.4ポイント高くなります。

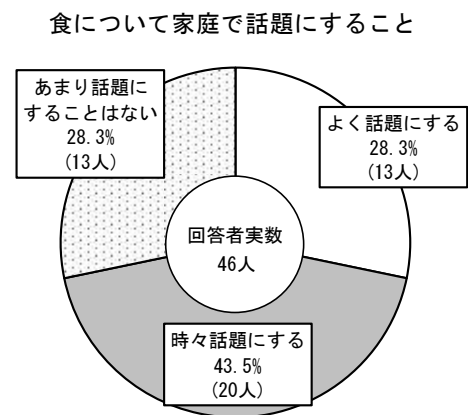
「よく読んでいる」は「中学生」が28.6%で、「小学生」より8.6ポイント高くなりますが、「あまりよんでいない」は「中学生」が23.8%、「小学生」が4.0%で、「中学生」がほとんどを占めます。



(3) 食について家庭で話題にすること

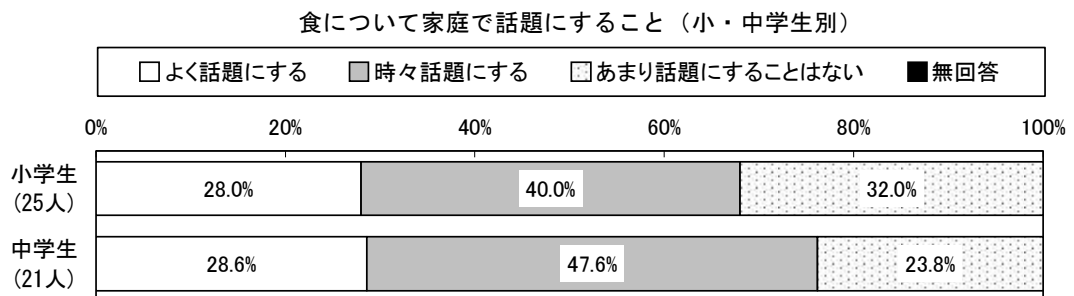
問12：食について家庭で話題にすることがありますか。

食について家庭で話題にすることは、「時々話題にする」が43.5%と最も高く、「あまり話題にすることはなく」と「よく話題にする」が28.3%となります。



小・中学生別にみると、「時々話題にする」は「中学生」が47.6%、「小学生」が40.0%で、「中学生」が7.6ポイント高くなります。一方、「あまり話題にすることはなく」は「小学生」が32.0%、「中学生」が23.8%で、「小学生」が8.2ポイント高くなります。

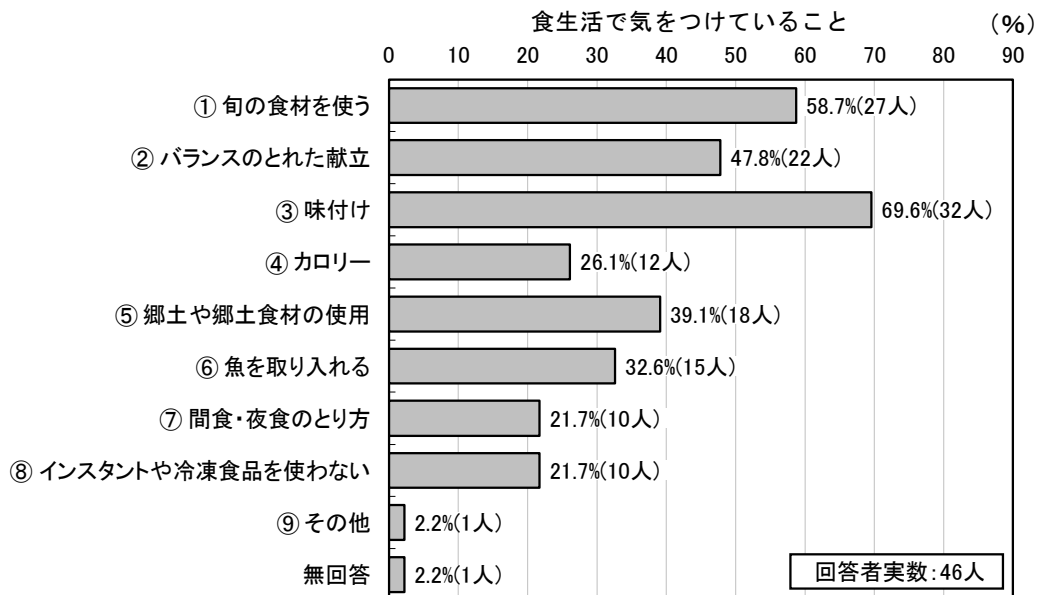
「よく話題にする」は小・中学生とも28%台とほぼ同率となります。



(4) 食生活で気をつけていること（複数回答）

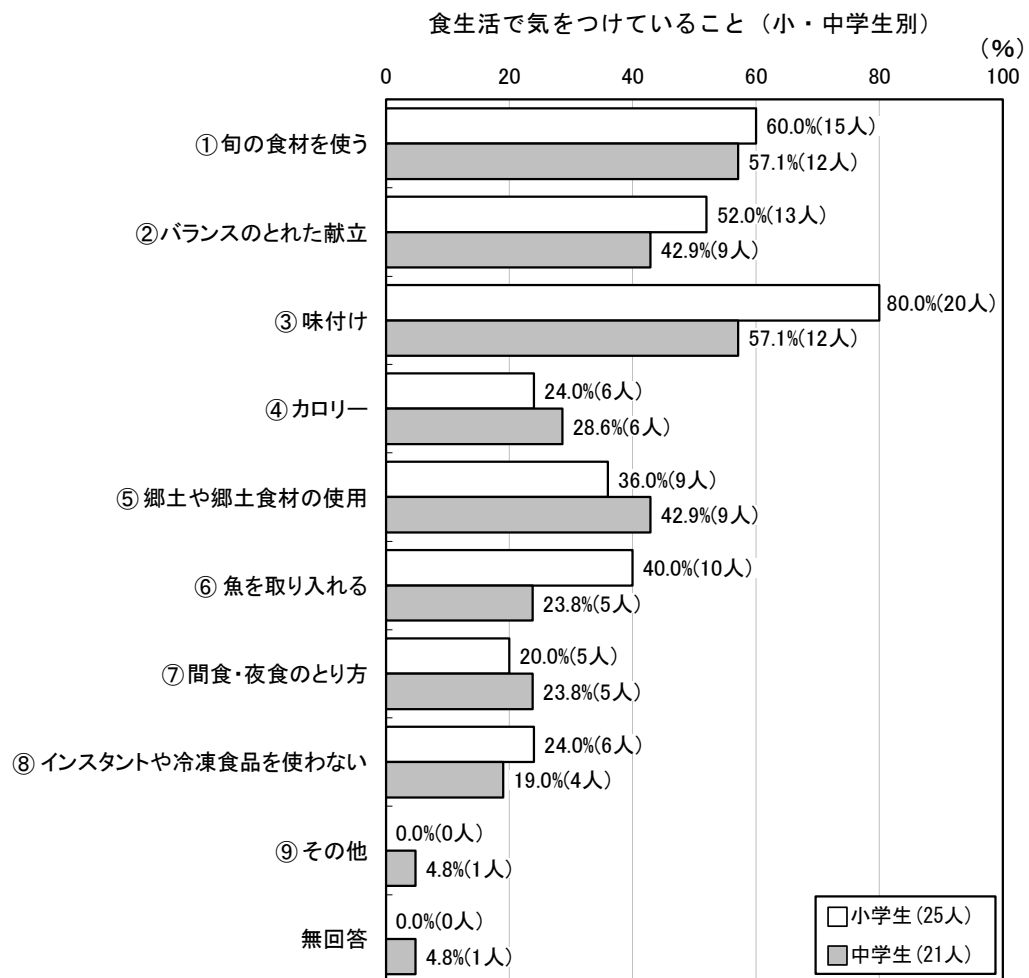
問 13：食生活で気をつけていることがありますか。（複数回答可）

食生活で気をつけていることは、「③味付け」が 69.6%と最も高く、次に「①旬の食材を使う」が 58.7%、「②バランスのとれた献立」が 47.8%となります。



小・中学生別にみると、「③味付け」は「小学生」が80.0%「中学生」が57.1%で、「小学生」が22.9ポイント高くなります。また、「⑥魚を取り入れる」も「小学生」が40.0%、「中学生」が23.8%で、「小学生」が16.2%高くなります。そのほか、「①旬の食材を使う」、「バランスのとれた献立」、「⑧インスタントや冷凍食品を使わない」についても、「小学生」の割合が高くなります。

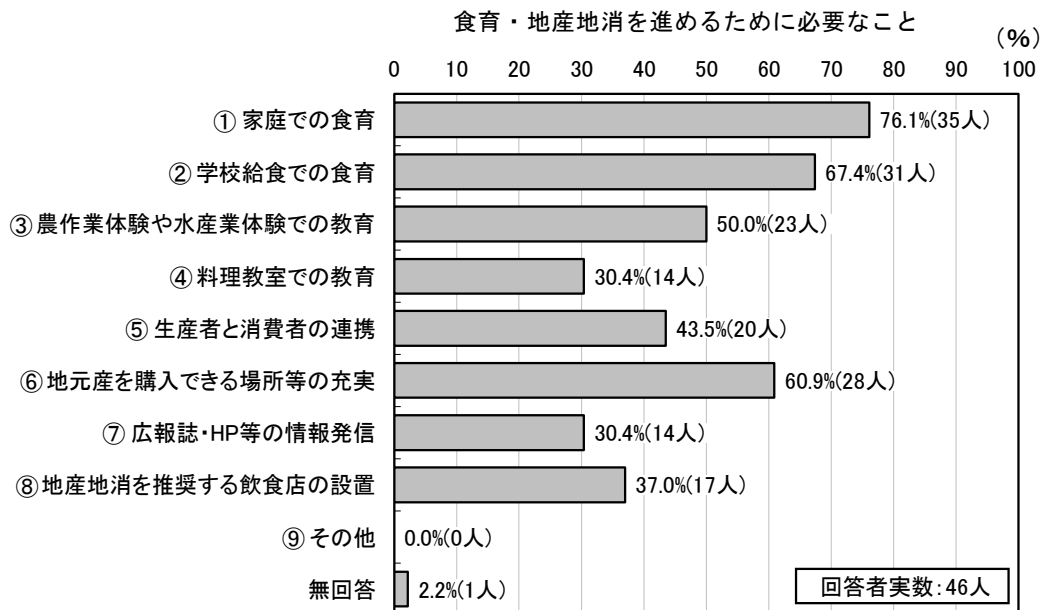
一方、「④カロリー」、「⑤郷土や郷土食材の使用」、「⑦間食・夜食のとり方」では「中学生」の割合が4.6ポイント、6.9ポイント、3.8ポイント高くなります。



(5) 食育・地産地消を進めるために必要なこと（複数回答）

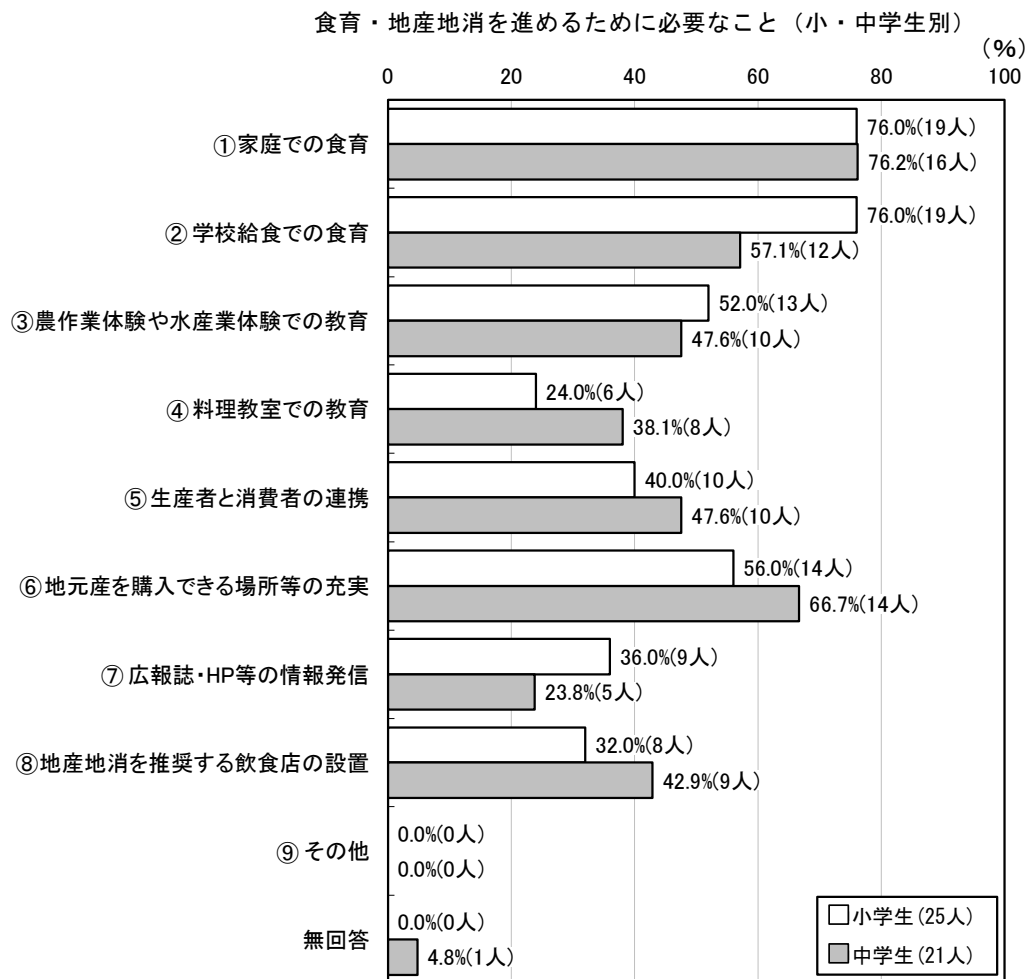
問 14：食育・地産地消を進めるために必要なことは何だと思いますか。（複数回答可）

食育・地産地消を進めるために必要なことについては、「①家庭での食育」が 76.1%と最も高く、次に「②学校給食での食育」が 67.4%で、家庭や学校給食における食育を重視する保護者が多いことがわかります。また、「⑥地元産を購入できる場所等の充実」が 60.9%、「③農作業体験や水産業体験での教育」が 50.0%と、この 2 項目についても半数以上の保護者が必要と考えています。



小・中学校別にみると、「①家庭での食育」は小・中学生とも76%台の割合で違いはありませんが、「②学校給食での食育」は「小学生」が76.0%、「中学生」が57.1%で、「小学生」が18.9ポイント高くなります。また、「③農作業体験や水産業体験での教育」、「⑦広報誌・HP等の情報発信」で「小学生」の割合が4.4ポイント、12.2ポイント高くなります。

一方、「④料理教室での教育」、「⑤生産者と消費者の連携」、「⑥地元産を購入できる場所等の充実」、「⑧地産地消を推奨する飲食店の設置」の4項目については「中学生」の割合が高く、中でも「④料理教室での教育」では「小学生」と14.1ポイントの差があります。



5. 伊是名村の郷土料理（自由記述）

問 15：本村の郷土料理は何だと思えますか。

商品名	件数	商品名	件数	商品名	件数
もずく(酢、てんぷら)	12	貝和え	2	お雑煮	1
アーサ(汁)	4	ホーミチャラチャラ	2	カーサムーチー	1
シガイ炒め	4	イジャナ和え	1	ハタカサ炒め	1
ヤギ(汁、刺身)	4	ジューシー	1	ハタハラハンブー	1
チーイルチャー	3	ゴヤーチャンプルー	1	イナムドウチ	1
アヒル汁	2	イソアワモチイルチャー	1	冬瓜汁	1

回答者実数：19人

6. 食育・地産地消を広めるための取組及び食育・地産地消についての見解（自由記述）

問 16：食育・地産地消を広めるためにはどういった取組みが考えられますか？
また、食育・地産地消についてあなたの見解を教えてください。

学生	記述内容
小学生	地産地消は、直接農家などから購入したり、誰が育てたものが分かればいいと思う。食育は、私達の我が家はアヒルを卵からかえして、育てて、さばいて食べます。命のありがたさを学ぶために。
小学生	定期的に青空テント市のような、島でとれたものを販売する日を設ける。 漁協のセリ市は2回のみで終わって残念。大量ケース売りだったのが、個人消費につながらなかったと思う。2～3匹売りだと盛況だったと思う。
小学生	生産者と消費者の連携
小学生	ねーがりとかで新鮮な野菜を買う
小学生	島でできた食材コーナーを設けて、その側にレシピ集などがあったら広がるかなと思います。
小学生	地元の食材を理解し、食材として多く利用すること
中学生	料理教室
中学生	自分が好きなものを食べればいいと思う
中学生	農水産の現場での教育は大事！
中学生	旬の野菜を作ったおじーおばーから料理するまでを教えてもらう。そしたら、おじーおばーともコミュニケーションができる。
中学生	私達家庭では、アヒルを育て、大きくし、さばいて食しています。命をいただくためには、どういった流れがあるか教えながらしています。
中学生	子ども達に食育することは、とても大切ですが、それ以前に親への意識付けが大切だと思う。

回答者実数：12人